

令和2年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果に関する報告書

(令和元年度施策・実施事業分)

令和2年12月

宇陀市教育委員会

はじめに

宇陀市教育委員会は、教育行政の充実を図るとともに、市民への説明責任を果たすことを目的として、令和元年度に執行した教育委員会の主な事務事業を宇陀市教育大綱に基づく基本方針の項目毎に分類し、目標の達成状況及び進捗状況について宇陀市教育行政点検評価支援員の意見を踏まえながら点検・評価を行い、本報告書をまとめました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律〔抜粋〕

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

宇陀市教育委員会

教育長 福田 裕光
委員 岡本 憲明
委員 巽 礼子
委員 吉川 壽一
委員 峯畑 忠郎

1 施策・事業点検及び評価の実施概要

宇陀市教育委員会は、「宇陀市教育大綱」及び年度ごとの「学校教育の指導方針」、「生涯学習振興指針」並びに「人権施策基本計画」等に基づき、社会環境や財政状況に弾力的に対応した施策・事業を遂行しています。

その具体的な取組に関して目標達成状況等を踏まえた点検・評価を行いました。

今回の点検・評価の対象は令和元年度に実施したうちの主な施策・事務事業です。

2 宇陀市教育行政点検評価支援員

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第2項に規定する教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会自らが点検・評価をした結果について学識経験者2人に点検評価支援員を委嘱し、教育面での効率性・有効性の観点から改善点などについてご意見をいただきました。

施策・事業を見直すうえで、点検評価支援員の専門的で尚且つ市民目線に立った指摘を総合的かつ客観的に捉え、また、真摯に受け止め、職員の意識改革につなげ新たな進展をします。

■支援員の氏名

北森 基之 氏（宇陀市在住）

田中 三彦 氏（宇陀市在住）

■点検評価支援員と教育委員会事務局職員による会議開催

令和2年9月10日（木） 午前9時～午後5時

〔教育委員会活動・学校教育等の概略説明と質疑応答、点検評価支援員からの総括的な意見〕

3 教育委員会の主な運営・活動状況

総合教育会議において、宇陀市の目指すべき教育を「宇陀市教育大綱」としてまとめ、この大綱に基づく4つの基本目標とそれらを推進するための5つの基本方針に沿った課題に、平成28年度から4年を目途に取り組んでいます。

令和元年度も、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4並びに第14条及び第21条に基づき、次に掲げる教育に関する事務を管理し、執行いたしました。

- ・教育委員会会議
- ・総合教育会議
- ・教育方針及び教育計画の策定
- ・教育に係る調査及び統計
- ・学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止
- ・事務局及び教育機関の職員の人事
- ・児童生徒の就学
- ・学校の組織編制、教育課程、学習指導
- ・教科書その他の教材の取扱い
- ・事務局及び教育機関の職員の服務及び研修
- ・学校施設及び設備の整備
- ・教職員に対する指導助言
- ・学校保健
- ・学校給食
- ・生涯学習の振興に係る施設の企画及び調整
- ・社会教育の基本計画及び総合調整
- ・社会教育に関する施設の設置及び管理
- ・社会教育団体の指導育成
- ・家庭教育、青少年教育、成人教育及び公民館事業
- ・文化及び芸能の振興
- ・スポーツ・レクリエーションの指導奨励
- ・文化財の保護、活用及び啓発
- ・文化財の指定、調査、研究、記録及び資料の作成 等

◆総合教育会議の開催

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に基づき、4回開催されました。

■令和元年度第1回宇陀市総合教育会議（令和元年6月26日）

- ・宇陀市教育大綱の策定について
- ・スポーツ施設等個別施設計画策定について
- ・榛原幼稚園・榛原西幼稚園の統合について

■令和元年度第2回宇陀市総合教育会議（令和元年11月11日）

- ・宇陀市教育大綱の策定について
- ・宇陀市におけるプログラミング教育の推進について

■令和元年度第3回宇陀市総合教育会議（令和2年2月4日）

- ・令和元年度宇陀市教育大綱にかかる事業実施概況について
- ・宇陀市教育大綱の策定について

■令和元年度第4回宇陀市総合教育会議（令和2年3月2日）

- ・宇陀市教育大綱の策定について

◆教育委員会会議の開催

教育委員会会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条及び「宇陀市教育委員会会議規則」に基づき、令和元年度は定例会12回と臨時会1回、合計13回の会議を開催しました。

教育委員会会議は原則公開しています。令和元年度の傍聴者は2名でした。

◆教育委員会審議案件等の実績

教育委員会会議では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「宇陀市教育長に対する事務委任規則」の規定に基づき、種々の案件について十分な議論、審議を行いました。

さらに、各担当課から所管する事務について詳細な報告や協議を行うことで、教育委員会と事務局が同一の施策方針のもとで、一層事業が充実、推進されたと考えています。

<令和元年度の審議案件>

■4月定例教育委員会（4月25日）

- ・宇陀市立学校給食センター更新懇話会設置要綱の制定について
- ・宇陀市教育支援委員会委員の任命及び委嘱について（後任）
- ・宇陀市スポーツ推進委員の委嘱について
- ・宇陀市松山伝統的建造物群保存地区における建築基準法の制限の緩和に関する条例制定について

■5月定例教育委員会（5月31日）

- ・令和元年度宇陀市教科用図書選定委員会委員の任命並びに令和2年度使用小学校教科用図書、中学校教科用図書（「特別の教科 道徳」以外）採択に係る諮問について
- ・令和元年度宇陀市教科用図書選定委員会調査研究員の任命について
- ・宇陀市松山地区伝統的建造物群保存地区保存審議委員の委嘱について

■6月定例教育委員会（6月28日）

- ・宇陀市立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・宇陀市いじめ問題等対策委員会委員の委嘱について

- 7月定例教育委員会（7月30日）
 - ・宇陀市立幼稚園設置条例の一部改正について
 - ・宇陀市社会体育施設条例の一部改正について
 - ・消費税及び地方消費税の税率の引き上げ等に伴う関係条例の整備に関する条例について
 - ・宇陀市歴史文化館条例の一部改正について
 - ・宇陀市公民館管理運営規則の一部改正について
 - ・宇陀市中学校運動部活動指導員設置要綱の一部改正について
 - ・宇陀市学校規模適正化検討委員会の委員の委嘱について
 - ・令和元年度宇陀市教育行政点検評価支援員の選任について
- 8月臨時教育委員会（8月21日）
 - ・令和2年度使用小学校教科用図書及び中学校教科用図書（「特別の教科 道徳」以外）の採択について
- 8月定例教育委員会（8月28日）
 - ・宇陀市消費税及び地方消費税の税率の引き上げ等に伴う関係条例の整備に関する条例について
 - ・宇陀市学校規模適正化検討委員会委員の委嘱について
- 9月定例教育委員会（9月30日）
 - ・宇陀市立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
 - ・宇陀市立幼稚園規則の一部改正について
 - ・宇陀市立幼稚園預かり保育実施要綱の一部改正について
 - ・宇陀市立学校給食費徴収規則の一部改正について
 - ・宇陀市通級指導教室設置要領の一部改正について
- 10月定例教育委員会（10月23日）
 - ・宇陀市学校規模適正化検討委員会への諮問について
 - ・社会体育施設条例の一部改正について
 - ・宇陀松山まちなみ保存会補助金交付要綱の制定について
- 11月定例教育委員会（11月28日）
 - ・令和元年度第2回宇陀市教育支援委員会の審議結果について
- 12月定例教育委員会（12月25日）
 - ・宇陀市教育委員会研究校等補助金交付要綱の一部改正について
 - ・宇陀市就学援助に関する要綱の一部改正について
 - ・宇陀市松山伝統的建造物群保存地区保存計画の一部改正について
- 1月定例教育委員会（1月22日）
 - ・宇陀市生涯学習施設使用料の減免に関する要綱の一部改正について
 - ・宇陀市社会体育施設使用料の減免に関する要綱の一部改正について
 - ・宇陀市文化会館使用料の減免に関する要綱の一部改正について
 - ・宇陀市公民館使用料の減免に関する要綱の一部改正について

■2月定例教育委員会（2月19日）

- ・宇陀市スポーツ施設等個別施設計画策定委員会設置要綱の制定について
- ・宇陀市社会体育施設条例施行規則の一部改正について
- ・宇陀市教育センター事業実施要綱の一部改正について
- ・宇陀市中学校部活動指導員設置要綱の一部改正について

■3月定例教育委員会（3月27日）

- ・宇陀市立学校の管理運営に関する規則の一部改正について

◆教育委員会会議以外の活動

[学校訪問]

学校長等から、今年度の学校経営の重点項目、教育課程の特色、創意工夫の点などについて説明を受け、その後、「学校教育法施行規則」及び「宇陀市学校管理運営規則」に基づく次に示す各種表簿を点検しました。

＜各種表簿＞

学校日誌・出勤簿・旅行命令簿・教育計画書（教育課程）
指導要録・健康診断に関する表簿・薬品管理簿等

学校施設・設備の視察・点検を行い、児童生徒等の学習・授業の様子を参観しました。

その後、改善点について意見交換を行うとともに教育の課題を探り、学校長等に対し指導・助言を行いました。

また、入学式、卒業式、体育大会等学校行事への参加を通じて、児童生徒の活動状況を参観しました。

奈良県教育委員会が定める「学校教育の指導方針」ならびに「宇陀市学校教育の指導方針」に添った教育がなされているか、教育委員、教育長、指導主事及び事務局職員、さらに県教育委員会事務局教職員課の管理主事も加わり、次に示す観点で実態を調査しました。

＜実態把握の観点＞

県及び市の学校教育に関する方針に添った重点施策
学校の経営方針・教育課程（教育方針と重点指導）
特別支援教育・道徳・人権教育・生徒指導・研究主題
職員研修・児童生徒の安全確保と危機管理・評価の実施と公開
家庭や地域との連携等

令和元年度は、5月から6月にかけて小学校6校、中学校4校、幼稚園3園、こども園2園、保育所3所を訪問しました。

◇榛原北保育園
菟田野保育所 令和元年5月29日

◇榛原幼稚園
榛原西幼稚園 令和元年5月30日

◇榛原小学校
榛原西小学校 令和元年5月31日

◇菟田野小学校
大宇陀中学校 令和元年6月4日

◇榛原東小学校
室生中学校
室生小学校 令和元年6月6日

◇榛原中学校
大宇陀小学校
菟田野中学校 令和元年6月10日

◇大宇陀こども園
室生こども園 令和元年6月11日

◇しらゆり保育園
榛原東幼稚園 令和元年6月19日

[宇陀市学校ステップアップ訪問]

学校は、教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならないとされています。

そこで、宇陀市教育委員会は教育水準の維持と向上を図るため、学校評価を含めた学校組織マネジメントのPDCAプロセスの実施局面である時期において、学校を訪問し具体的取組状況を確認することにより各学校の主體的な形成的評価を促すとともに、学校改善のために必要な支援・助言を行うためステップアップ訪問を実施しました。

令和元年度の訪問は市内小学校 6 校、中学校 4 校でした。

◇榛原西小学校

榛原小学校 令和元年 10 月 15 日

◇室生小学校

室生中学校 令和元年 10 月 29 日

◇菟田野小学校

菟田野中学校 令和元年 11 月 6 日

◇榛原東小学校

榛原中学校 令和元年 11 月 19 日

◇大宇陀小学校

大宇陀中学校 令和元年 12 月 4 日

[教育委員・教育長研修等]

以下の研修等を通じて、自己研鑽に努めるとともに教育事情調査や教育相談等の日常活動に努めています。

◇奈良県都市教育長協議会 平成 31 年 4 月 22 日 (奈良市)
令和 元年 7 月 19 日 (奈良市)
令和 元年 10 月 16 日 (橿原市)
令和 2 年 2 月 26 日 (橿原市)

◇近畿都市教育長協議会定期総会 平成 31 年 4 月 25 日～26 日
(滋賀県近江八幡市)
近畿都市教育長協議会研究協議会 令和元年 10 月 24 日～25 日
(滋賀県長浜市)

◇全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会 令和元年 5 月 23 日～24 日
(富山県富山市)

◇近畿市町村教育委員会研修大会 令和元年 10 月 11 日
(滋賀県野洲市)

◇奈良県市町村教育委員会連合会会議 令和元年 5 月 17 日 (奈良市)

4 各施策・事業の取組状況と支援員の意見

各施策・事業点検評価シートは、「宇陀市教育大綱」に沿って、項目ごとに主な施策・事業を点検し、評価した結果です。

シート中の『達成度』『必要性』『有効性』とは、教育委員会が次の基準により判断したものです。

- | | | |
|---|------|----------------------------|
| A | 高い | （概ね期待通りの成果が上がり、目標を達成できた。） |
| B | やや高い | （ほぼ目標を達成したが、改善の余地がある。） |
| C | やや低い | （目標をあまり達成できなかったので、改善を要する。） |
| D | 低い | （目標を達成できなかった。） |

また、『点検評価支援員による総合評価』『今後の方針』については、それぞれの欄外※印にある 5 段階評価で評価しています。

施策・事業の点検・評価 一覧

宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業		自己評価			総合評価
		達成度	必要性	有効性	
1 確かな学力・規範意識・体力の向上					
1	小中学生基礎学力向上事業	B	A	A	2
2	外国語活動指導助手設置事業	A	A	A	2
3	プログラミング教育の導入に伴う調査・研究事業	A	A	A	2
4	教職員の研修事業	A	A	A	2
5	成人式事業	A	A	A	2
2 夢を育む教育環境づくり					
6	学校給食賄材料購入事業	A	A	A	2
7	給食センター建替えに伴う資料作成事業	B	A	A	2
8	安全・安心メール配信システム運営事業	A	A	A	2
9	小中学校空調設備設置事業	A	A	A	5
10	宇陀市学校規模適正化検討事業	C	B	A	2
11	宇陀市図書館を使った調べる学習コンクール実施事業	B	A	A	2
12	総合体育館・総合運動場運営事業	B	B	A	2
13	室内温水プール及びテニスコート管理運営事業	B	B	A	2
14	図書館機能充実事業	A	A	B	2
15	図書返却ポスト事業	A	A	A	2
16	働く子育て世代の図書館利用の充実事業	B	A	A	2
17	寄贈資料の管理運営事業	A	A	B	2
3 地域全体で子育てを					
18	ぬくもり修学奨励資金支給事業	A	A	A	2
19	教育相談事業	A	A	A	1
20	教育センター事業（適応指導教室「はばたき」）	A	A	A	1
21	教育センター事業（通級指導教室「ほほえみ」）	A	A	A	1
22	教育センター事業（通級指導教室「ひだまり」）	A	A	A	1
23	青少年育成支援事業	A	A	A	2
24	子ども活動支援事業	B	A	A	2
25	子どもフェスタ事業	A	A	A	2
4 人権文化の創造					
26	公民館管理運営事業	A	A	A	2
27	各種講座・教室事業	A	A	A	2
28	社会教育推進講座事業	B	A	A	2
29	市美術展事業	C	C	A	2
5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり					
30	文化財保存修理等補助事業	A	A	A	2
31	薬の館管理運営事業	A	A	A	2
32	重要伝統的建造物群保存地区保存事業	A	A	A	2
33	埋蔵文化財発掘調査事業	A	A	A	2
34	街なみ環境整備事業	A	A	A	5
35	史跡宇陀松山城跡保存整備事業	A	A	A	2
36	史跡森野旧薬園保護事業	A	A	A	2
37	国県指定史跡災害復旧事業	A	A	A	2
38	国指定天然記念物等保護再生事業	A	A	A	2
39	小学校水泳教室事業	B	A	A	2
40	水泳教室事業	A	A	A	1
41	宇陀市小学校対抗子ども駅伝大会事業	B	A	A	2
42	大人のための運動教室事業	A	A	A	1
43	宇陀シティマラソン事業	B	A	A	2
44	市民スポーツ大会事業	A	A	A	2
45	近畿高等学校自転車競技大会・ロードレースの部	A	A	A	2

自己評価 「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 小中学生基礎学力向上事業		所管課	教育総務課		
事業の概要	子どもの学力や学習状況に関する調査・研究を行うとともに、そこから見える諸課題の改善に向けた事業を行う。また、それら諸課題の改善に向けた取組について、研究校を指定し、その取組を支援するとともに、その成果発表会を行い市内全校への普及を図る。					
目標・実績	児童生徒の学習意欲、学力、学習習慣の向上を図る。 ・宇陀市学力・学習状況調査の実施及び結果分析及び宇陀市生活行動・学習活動調査(学習生活アンケート)の実施及び結果分析 ・市、国の学力・学習状況調査の結果からまとめた「UDAスタンダード」(授業改善・家庭学習の習慣化)の推進及び実践交流 ・奈良県学力向上実践推進事業の指定研究を行うとともに、宇陀市研究校を指定し、幼少中の連携を推進					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	宇陀市の子どもを、学力調査、学習生活アンケートにより同一集団の学力及び学習、生活習慣について調査、分析した結果、子どもの学力は小学校6年生から中学校3年生にかけて上昇し全国平均に迫っている。また、授業や家庭での学習状況も改善傾向を示した。奈良県学力向上推進事業の協力校(2小1中)でも、一定の成果を出している。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
評価理由	授業、家庭学習に関する調査項目では改善傾向が続いている。家庭学習習慣、学力は全国平均を下回り、引き続きの取組が必要である。		学力調査、生活アンケート等から、宇陀市全体の学力に関する重点課題は、授業改善と家庭学習習慣の定着であり、市全体として取り組む必要がある。		協力校では目標を絞り、学校全体として取り組み、課題改善に向けた成果が確認できた。このような取組をモデルとして市全体に広げることが有効であると考え。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善のためには、授業研究を積極的に行う必要がある。自分の授業を他の教師から批評してもらったり、他の教師の授業を見て批評したりすることを繰り返すことで、一人ひとりの教師の授業力は向上し、授業は改善される。他校の授業研究にも積極的に参加できる体制も必要である。もし、これらのことができにくい要因があるならば、それを取り除かなければならない。 ・学力調査や学習生活アンケート調査により、宇陀市の課題を把握していると考え。教員の側から見れば、授業改善が求められており、家庭への働きかけでは、家庭学習の定着が引き続き課題となっている。主体的な学びの力を育て、自己肯定感を醸成して、学校と家庭が信頼の絆でつながる取組の積み重ねが必要である。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------------------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 教師の指導力向上と家庭学習習慣の定着は学力向上の両輪と考えられる。引き続き、UDAスタンダードを中心とした取組を推進し、授業研究により教師同士が切磋琢磨できるようにする。また、家庭学習に関わって、今後導入予定の一人一台パソコンを活用し、個別最適化された学習による学力の定着についての取組も推進する。	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 外国語活動指導助手設置事業		所管課	教育総務課		
事業の概要	市内全小学校にALT(外国語指導助手)を配置し、外国語活動の授業でクラス担任と連携し、小学校3・4年生「Let's Try!」小学校5・6年生「We Can!」等を活用したチームティーチングを行う。小学5、6年生のクラスに対し年間30回、小学3、4年生のクラスに対して年間15回、小学1、2年生のクラスに対し年間10回ALTを派遣した。(外国語活動及び国際理解に関する教育の補助・外国語教材作成の補助) また、幼稚園、こども園、保育所、子育て支援センターに年間各10回訪問し、英語活動を行った。					
目標・実績	外国語活動において、話す、聞くことを中心に外国語に慣れ親しむ活動を通じて、言語や文化について直接的体験を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標としている。 「English Village～英語村で遊ぼう2019～」では、小学3～6年生の約40名が、6か国のALTとコミュニケーションを図りながら、各国の遊びや文化に触れることができた。これからも、幼児期からネイティブな英語に慣れ親しむことによって英語に対する関心や興味を高め、英語力の向上につなげていきたい。					
教育自己評価委員会の	成果と課題 子どもたちは授業で生きた英語に触れることができる。また、ALTの母国の生活や行事などを知り、日本との違いに気付くなどグローバルな視点を育むことができる。 小学校から中学校へスムーズな移行ができるよう、小・中学校合同の担当教諭研修会の開催及び授業参観を行い、小・中連携した取組を行っている。今後もALTのチームティーチングの在り方を工夫するなど、より効果的な英語教育及び外国語活動の指導につなげたい。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	幼児期からネイティブの英語に慣れ親しむことにより、英語への興味・関心が高まり、話す、聞く能力の向上が期待できる。	評価理由	令和2年度から、5、6年生の英語が正式教科になり、3、4年生に外国語活動が取り入れられる。今後は更に外国語教育の充実が重要となる。	評価理由	英語を話す、聞くことへの興味を深め、国際理解の素地を養い、英語学習への意欲向上が期待される。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見	<p>・子どもたちが、たまたま路上で見かけた外国人に「ハロー」と声を掛ける姿を見たことがある。昔の子どもには到底できないことだろう。授業でALTと触れ合うことを通して、外国語や外国人に対する抵抗感のようなものが薄れてきたのだと思われる。英語力の向上は大切だけれど、小学校段階では、英語に対する興味、関心を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育みたい。小学校での英語学習の素地を中学校の英語学習で生かすためにも、現在行われている小・中学校合同研修会は今後も継続すべきである。その中で、個々の教員の授業力の向上が図られることを期待したい。</p> <p>・宇陀市として、ALTを雇用し、市内の小学校、幼稚園、保育所などに定期的に派遣している。小学校の学習指導要領の改訂に伴い、教科としての実施が行われ、ALTの存在はますます重要となっている。ALTと指導する担任との打ち合わせ時間の調整や小中学校との連携など、課題も多くあるが、より積極的なコミュニケーション力の素地を培っていただきたい。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
------------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>小学校において英語が教科化となり、ALTの存在はますます重要となっている。今後も、引き続きALTを配置し、子どもたちが生きた英語に親しみながら、英語を話すことや聞くことへの興味・関心やコミュニケーション能力を高められる環境を整える。また、小・中学校合同の担当教諭の研修会の開催など小・中連携の取組を行い、より効果的な英語教育及び外国語活動の指導につなげる。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	(宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業) 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 プログラミング教育の導入に伴う調査・研究事業				所管課	教育総務課
事業の概要	平成29年3月に告示された新学習指導要領において、情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられた。「プログラミング的思考」を育成するため、令和2年度から小学校においてプログラミング教育が必修化される。 宇陀市では、平成30年度に行った指導者育成及びモデル校での実践研究を踏まえ、令和元年度からの1年前倒しの先行実施に向け、必要な教材、通信環境等の準備、整備を行う。					
目標・実績	・教育委員会で整備したプログラミング関連教材の使い方の研修の実施。 ・ICT活用に関する知識と実践力を有し、市をリーディングしていく教員の育成。 ・菟田野小学校をモデル校に指定してプログラミング教育の先行研究を行い、市内各小学校への普及を図る。 ・中学校技術担当教員への教材の貸出。					
教育委員会 自己評価	成果と課題					
	・教育委員会で整備した教材を各小学校に紹介するとともに、それらを使った授業に関する研修会を行った。また、それらを使った授業記録を各校で共有できるフォルダにおき、随時共有できるようにした。 ・プログラミング教育担当者会を複数回開いて、教育計画等の情報交換や新しい情報の共有を図った。 ・菟田野小学校の実践モデルを市内外へ普及した。					
	達成度	A		必要性	A	
	有効性			A		
評価理由	菟田野小の先行事例を他校の参考にすることができた。また、各校で教材を共有し、授業例とともに活用することができた。各校をリーディングする人材とそのネットワークを作った。		来年度以降、各小学校で円滑かつ適切にプログラミング教育が行われるようにするためには、事例を共有し、授業の質を高めることが必要であるから。		各校の使用教材が共通しており、その指導案の共有、各校のリーダーの育成により、プログラミング教育は持続可能になると考える。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 評価の 主な 意見 から	・学習指導要領が改訂されるたびに、新しい概念、教科、領域が現れ、その準備や整備を迫られる教育委員会及び学校現場の取組に敬意を感じます。情報活用能力を育て、伸ばすことは、従来も、国語、社会、総合的な学習などの時間に取り組みされてきた。教育委員会が主導して、教材整備をしたり、実践記録を共有するフォルダを開設したりしていることにより、プログラミング教育の導入が各校においてより容易に進められると思う。 ・令和2年度から、小学校において「プログラミング的思考」を育成するため、プログラミング教育が必修化される。宇陀市では、平成30年度において、指導者育成及びモデル校を指定し、先行実践を行ってきた。新型コロナ対策のこともあり、タブレットなど多くの課題があるが、個々の家庭状況もふまえながら、必要な教材や通信環境の整備、学校での実践の積み重ねを望みたい。					
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の 方針	(施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性) 引き続き教材の貸出と授業実践の共有を積み重ね、プログラミング教育の充実を図る。また、今後導入予定の一人一台パソコンの活用を図るとともに、中学校技術科によるプログラミング教育など校種を越えた教材の連携、交流を推進する。					
	事業の総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	(宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業) 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 教職員の研修事業		所管課	教育総務課
事業の概要	子どもの学力に関わる諸課題及び特別支援教育、その他今日的な教育課題に関わる職員研修を実施することにより、教職員の資質及び指導力向上を図る。			
目標・実績	宇陀市の教育に関わる独自課題、今日的課題の職員研修を行い、教職員の資質及び指導力向上を図る。 ・宇陀市教育センター研修(15回) ・学力向上推進協議会(UDAスタンダード推進委員会)2回(うち1回はコロナ感染症のため中止) ・宇陀市特別支援教育コーディネーター研修(3回) ・宇陀市初任者研修(2回) ・宇陀市教育相談コーディネーター研修(2回)			
教育自己評価委員会の評価	成果と課題 実施した研修は参加者のほとんどが「参考になった」「どちらかといえば参考になった」と肯定的に答えていることから、一定の成果があったものとして考えている。宇陀市の特別支援教育、教育相談体制(問題行動に対するチーム対応)の向上に関する研修は人材育成の点からも計画的に実施している。いじめ問題に関する研修を管理職等各校必修で実施したが、学校の対応力の向上のためには、毎年度実施することが必要と考えている。			
	達成度	A	必要性	A
	有効性	A	評価理由	評価理由 資質及び指導力の向上のために、研修を実施する必要性は高い。また、継続した研修により専門性の高い人材を各学校に育成することが、市全体の教育力を高めることにつながる。
評価理由	アンケートの結果、参加者のほとんどの参加者から肯定的な回答があった。		評価理由 宇陀市には宇陀市の教育課題があり、その改善を図るためには、独自で計画的に研修を行うことは必要。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な評価意見から	・上記の実績欄の内容を見るかぎり、講義形式のものが多くに思われる。教職員の資質向上には資すると思われるが、指導力向上には、やはり授業を通じた研修が必要である。「わかる」と「できる」は違うと言われるように講義を聴いて「わかった」と思ったことを、すぐ自分の授業に活かすのは難しい。何事も試行錯誤を繰り返して「できる」ようになっていくのではないだろうか。地道に授業研究を続けていく研修も大切にしていきたい。 ・教職員の働き方改革が叫ばれる中、児童生徒の学習意欲の向上や自己肯定感の醸成には、教員の資質向上が欠かせない。宇陀市の教育的な課題や今日的な課題を中心にして、指導力の向上を図る必要がある。新型コロナ対策の課題と重なり、実施するための課題もあるが、専門性の高い人材を育成するため、より充実させていただきたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	(施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性) 働き方改革の趣旨も含めて研修の内容の重点化を図りながら、オンライン等で実施可能なものはオンラインで行うことができるよう環境を整備する。また、点検評価員の指摘にあるように、学習指導に関わって実践を通じた研修にも努める。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・道徳・規範意識の向上、生活習慣の確立、「夢・志」を育む教育の推進 成人式事業			所管課	生涯学習課	
事業の概要	成人の日に新成人が一堂に会し「成人式」を開催。					
目標・実績	令和2年1月13日(祝)に文化会館において「成人式」を開催した。式典及び記念事業を実施し、対象者268人中213人の参加を得た。					
教育自己評価委員会の	成果と課題 新成人の中から実行委員を募集し、12名が企画・運営し、式典及び記念行事を実施。 参加率は79.50%であり、式典では道徳・規範意識を自覚し、記念行事では恩師のビデオレターにて懐かしむ内容となり、新成人には有意義な時間となった。 ※民法改正により、令和4年4月1日から成人が18歳となり、成人式の在り方について検討中					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	評価理由		評価理由		
	式典及び記念行事は、実行委員会(新成人代表)が企画・運営して、新成人が一体となれる成人式を開催できた。		日本の文化で「自ら大人の一員として自覚を持ち、その責任を果たす」そんな青年たちを祝福しようと始められた大切な事業である。		新成人が大人の一員として、道徳・規範意識を自覚してもらう節目として開催する事業である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人が自ら企画、運営する成人式の在り方は、成人となった自覚を高めるために有効である。民法改正により、令和4年4月から18歳成人となることを受けた成人式の在り方の検討を急ぎ、具体的な内容をできるだけ早く周知し、不必要な混乱を防いでいただきたい。 ・その年の新成人の中から、実行委員を募集し、12名の委員が企画・運営を行い、6回の会議を重ねて、式典や記念行事が行われている。参加率は、80%近くであり、恩師のビデオレターなど工夫されている。新型コロナ対策や民法改正による成人式の会場選定や参加対象者についての検討が十分になされ、参加対象者に周知されることを望みたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 <ul style="list-style-type: none"> ・民法改正に伴う成人式の在り方を決定し、混乱のないよう周知していきたい(R2.10決定。11月周知開始(広報、HP))。 ・式典及び記念行事を通して、成人としての自覚、社会人の出発点としての規範意識を高めていく大切な機会であるので、今後も心に残る意義ある成人式となるように内容の工夫と充実を図りたい。 ・開催に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期して運営できるように検討・協議を行いながら進める。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 学校給食賄材材料購入事業		所管課	学校給食センター		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに「安全・安心でおいしい給食」を提供するため、国産物資、国内加工、無添加食材を基本として購入する。特に地場産物を中心とした旬の食材を積極的に購入する。また、県給食会との連携により、積極的な情報収集を行い食材の安全確認に努める。 アレルギー対応については、より安心で安全な対応を心掛ける。 まち・ひと・しごと創生総合戦略に、「学校給食地産地消促進事業」として数値目標を掲げ、市単独予算措置により地産地消を推進する。 					
目標・実績	<ul style="list-style-type: none"> 使用食材の安全衛生管理を徹底する。安全管理の方法として次の内容を実施している。①食材の産地表示の義務化 ②加工食品は、原材料及び産地確認 ③学校給食衛生管理基準に基づく食品検査を複数回実施 給食でのアレルギー対応として、献立の成分内容(アレルゲン)を明確にして、アレルギー対応(除去食)対象の保護者及び希望者に情報を提供する。また、平成30年8月には「宇陀市学校給食食物アレルギー対応検討委員会」を設置し、9月より幼稚園でもアレルギー対応(除去食)を開始している。 地場産物(市内・県内産)の積極的な購入により、地産地消を推進する。 【まち・ひと・しごと創生総合戦略「学校給食地産地消促進事業」の数値目標】 学校給食地産地消率(市内産野菜・きのこ類の重量比率) H27(基準値):10.55% ⇒ H31(目標値):35.00%(H30に20%より引上) R1(実績値):31.46% *学校給食費 食材購入費 :94,897,430円 地方創生総合事業費 食材購入費 :1,499,189円 					
教育委員会 自己評価	成果と課題 <ul style="list-style-type: none"> 地場産物(市内、県内産)を使用した献立による「安全・安心でおいしい給食」を提供することを心掛け、また、市内産の野菜等を積極的に購入し、地産地消の推進を図っている。 献立などに関する保護者の声を聞く場として、給食試食会を5校3園で7回実施し、208名の参加をいただいた。保護者の意見等は献立などに活かしている。また、食育授業を5校で10回開催、3校の施設見学(110名)及び1校の職場体験(5名)の受け入れなどにより、給食に対する関心や理解を深め、食育の推進に努めている。 					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	「安全・安心でおいしい給食」を提供することができた。 地産地消率については、目標値に及ばなかったが、概ね順調に推進している。		評価理由	衛生管理を徹底するため、産地表示の義務化や関連書類の提出を求めることにより、使用食材の安全を確認できる。 「宇陀市学校給食食物アレルギー対応検討委員会」の設置により、組織として取り組むことが出来る。	
	評価理由 保護者の意見等を、献立に活かしている。 成分内容等の情報共有により、効果的なアレルギー対応が出来る。幼稚園でのアレルギー対応を行っている。 食育により、食に対する関心や理解が深められる。					

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心、おいしい給食、アレルギー対応、地産地消、食育、その職務の多様性に感心し、感謝の念が起こる。地産地消率について目標値に及ばなかったとあるが、宇陀市の地域性や産業状況から見て、30%を越えているのは立派な値だと考える。 「安全・安心でおいしい食材」に対する関心が高まり、地域の食材に注目が集まる中、学校給食でも地場産物を中心とした旬の食材を積極的にとり入れ、30%以上の実績を残している。また、「宇陀市学校給食食物アレルギー対応検討委員会」を設置し、組織的に取組を進めている。更なる工夫改善と日々の安全管理の徹底を望みたい。 				
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 <ul style="list-style-type: none"> 市内産、県内産の食材を積極的に利用し、引き続き予算の許す範囲で地産地消を進め目標値に近づけるように努める。 宇陀市学校給食食物アレルギー対応検討委員会を通じて、保護者・学校・給食センターが正確な情報を共有し、安全管理の徹底に努める。 				
	事業の総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 給食センター建替えに伴う資料作成事業		所管課	学校給食センター		
事業の概要	・現在の学校給食センターは、築後44年が経過しており老朽化が著しく、施設の改修工事を適時行ないながら衛生管理に努めている。 ・子どもたちに「安全・安心でおいしい給食」を提供するため、宇陀市として給食センターの建替えについて具体的に進めていく。					
目標・実績	【給食センター建替えに伴う資料作成事業】 ・平成30年度事業として、6月補正予算で委託料の予算化を図り、委託業者を決定し作業に着手し年度内に、建設予定地並びに施設概要の決定を考えていたが、候補地の選定に時間を要し繰越事業となったが、令和元年度には候補地の選定が行われ、第1候補地の地元において第1回地元説明会を行った。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	・令和元年度には建設予定地の第1候補地選定を行い、第1回地元説明会を令和2年2月21日に開催することが出来たが、第2回以降の地元説明会が新型コロナウイルス感染症の拡大により延期となった。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由	建設予定地の第1候補地を選定することが出来、地元説明会を行ったが地元合意までは得られなかった。	評価理由	給食センターの建替えは、現施設の内容等を考えると、早急に推進していかなければならない。	評価理由	子どもたちに、「安全・安心でおいしい給食」を提供するには、給食センター建設は有効である。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	・コロナ禍のため、本事業の推進が遅延しているが、子どもたちに「安全・安心でおいしい給食」を提供することは、子どもたちの健康、命に結びつくことなので、可能な限り迅速に進められることを期待する。新給食センター完成までは、現状の給食センターでの衛生管理に努めていただきたい。 ・「安全・安心でおいしい給食」を提供するためには、衛生管理の整った施設の確保が欠かせない。建設予定地の地元説明会が順次行われているが、新型コロナ対策を十分に行った上で、慎重かつ迅速に、推進されることを望みたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 ・子どもたちに「安全・安心でおいしい給食」を提供していくため、現在の給食センターを維持・衛生管理に努め、新給食センター建設・完成に向けて可能な限り迅速に進める。 ・建設に向けての地元説明会においては、新型コロナ対策を十二分に行い、慎重かつ迅速に進める。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 安全・安心メール配信システム運営事業	所管課	教育総務課			
事業の概要	<p>保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校・学童保育室・子育て支援センターの保護者を対象として、学校等からの様々な連絡や緊急時の安否確認等、双方向の連絡等が行えるメール配信システム。</p> <p>このシステムの特徴は、一方的に送信するだけでなく、回答機能を装備していることにより、各種アンケートや会議の出欠等、迅速かつ的確な集計等が行えることである。</p> <p>また、気象庁と連携していることから気象警報発令時には即座に気象メールが配信され、地震等の緊急時にも安否確認が自動的に発信される。</p>					
目標・実績	<p>保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校・学童保育室・子育て支援センターの保護者及び教職員、教育委員会事務局職員、子ども未来課職員が登録しており、メール配信システムを構築することによって、緊急時の情報伝達が一斉にできることに加え、情報を共有することができる。それが子どもたちの生活の安全・安心につながる。</p> <p>9割を超える登録があり、学校行事、気象警報時、給食に関する緊急連絡、感染症対策等の連絡手段としての備えとなり、また効果を発揮した。</p>					
教育自己 委員評 会の 評価	<p>成果と課題</p> <p>幼稚園・保育所・小学校・中学校・子育て支援センター・学童保育室の職員及び児童生徒の保護者並びに教育委員会事務局職員・こども未来課職員等の大多数が登録している。</p> <p>昨年度より、在校生についての登録データを抹消することなく、継続して利用できるように運用方法を見直したことから、登録率を下げることなく保護者等の手続きも簡略化することができている。</p> <p>3月の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う全国一斉休業の際には、速やかに保護者への連絡ができた。また学童保育等の希望の有無を回答機能を利用して把握、行政サービスのきめ細やかな運用に効果を発揮することができたことから、今後も有効に回答機能を活用したい。</p>					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	評価理由		評価理由		
	システムの利便性が利用者に評価され、登録率は増加している。	必要な情報を、正確かつ迅速に登録者へ伝達することができる。		このシステムを活用することにより、正確かつ迅速な情報伝達が行えることから、緊急時の活用も含めて有効な情報伝達手段のひとつである。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 評価 員 意見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時にこそメール配信システムが有効である。難しいとは思いますが、登録100%を目指して努力していただきたい。また、過去には、年度途中でアドレスを変更しメールが届かなくなった人もいたため、注意が必要である。未登録の人への個別連絡のため、貴重な時間が割かれ、緊急時の対応が遅れるといった事態は、できるだけ少なくしていきたい。 ・現時点での登録数は、9割を大きく越えている。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う一斉休業や給食に関する緊急連絡など、十分な効果を発揮している。在校生の登録データも継続利用できるよう改善されたことも簡略化につながっている。今後も、緊急時の活用を含めて、有効に継続させたい。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------------------------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の 方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>新型コロナウイルス感染症による緊急連絡等が必要である状況を鑑み、引き続き、メール配信システムの運用を継続し、緊急時や不審者情報等の適切な情報発信に努める。また、毎年度全保護者登録を目指し、年度途中のメールアドレス変更時にも変更手続きをしてもらえよう定期的に案内をしていく。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-----------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 小中学校空調設備設置事業				所管課	教育総務課
事業の概要	小中学校普通教室空調設備設置工事					
目標・実績	近年の猛暑を受け、各小中学校に熱中症計を設置し実態の把握を行った。その調査結果を受け、児童生徒の体調管理や熱中症予防を行うため、普通教室等に空調設備を設置し、学校環境の向上を図る。					
教育委員会 自己評価 の	各小中学校に熱中症計を設置し実態の把握を行ったところ、「危険」とされる暑さ指数31℃以上に達している教室があり、児童生徒の体調管理や熱中症予防を行うため、平成30年9月補正で設計、3月補正で工事費の予算を計上し、令和元年9月に普通教室に空調設備の設置を完了した。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	同一年度に市内の全ての小中学校普通教室に空調設備の設置を完了した。	評価理由	普通教室は児童生徒が1日の大半を過ごす場所であり、近年の猛暑を受け児童生徒の体調管理や熱中症予防を行う。	評価理由	普通教室への空調設備設置により夏季の教育環境の改善を図ることができる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 評価 の 主 な 意 見	<p>・奈良県内でも40℃近い気温が計測されることがあり、児童生徒の健康が損なわれる恐れを感じていた中、空調設備が設置され、保護者、学校関係者、そして子どもたち全員が喜び、感謝していることと思う。定期的なメンテナンスや電気代等、経費はかかると思うが、児童生徒、教職員の健康安全のため、予算確保に尽力していただきたい。また、未設置の特別教室がある学校があるそうだが、設置に向けた取組をお願いしたい。</p> <p>・近年、自然環境が大きく変化し、教室内の温度も大きく上昇している。そうした中、令和元年度9月に普通教室の空調設備が整えられ、新型コロナ対策のため、授業時間の確保の観点から、夏休みが短縮された。空調設備設置事業が行われたため、夏期の教育環境が大きく改善された。今後さらに、授業時間の確保の観点から、特別教室の設置についても拡充を望みたい。</p> <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 5 】</p>
------------------------------------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の 方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>小中学校普通教室への空調設備の設置は完了したが、特別教室への設置について学校間でばらつきがあるため、設置していない学校への設置が必要となる。また、設置により維持経費が上昇するため運用について適切に維持管理していく必要がある。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 5 】</p>
-----------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	(宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業) 2 夢を育む教育環境づくり ・学校等の適正配置と就学前・小・中連携、一貫教育の工夫と推進 宇陀市学校規模適正化検討事業		所管課	教育総務課		
事業の概要	全国的に少子化が進む中、宇陀市においても小・中学校の小規模化が進んでおり、今後もこの傾向は続くものと考えられる。 このような現状を踏まえ、今後、想定される学校規模等の課題に計画的に対応するために、教育委員会の附属機関として、宇陀市学校規模適正化検討委員会を設置し、子どもの今と未来を見据え、子どもにとってより良い教育環境をつくるための今後の本市の学校の在り方について検討する。					
目標・実績	・宇陀市学校規模適正化検討委員会の設置及び3回の委員会の開催。 ・望ましい学校規模等に係る保護者及び教職員対象のアンケート調査の実施。 ・中間報告書の作成。					
教育自己委員会 の 評価	成果と課題 ・奈良教育大学赤沢早人教授をはじめ15名の委員による委員会の設置、11月及び2月に委員会を開催。 ・12月に市内園・所・小・中学校の保護者及び教職員を対象とした学校規模に関する意識調査を実施。 ・意識調査等の結果を分析した中間報告書(案)を作成し、検討する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、第3回の委員会を開催することができなかった。					
	達成度	C	必要性	B	有効性	A
	評価理由	新型コロナウイルス感染症の影響で、第3回の委員会を開催することができず、中間報告を行うことができなかった。	評価理由	アンケート調査の結果から、望ましい学校規模についての保護者等の考え方は読み取れるが、自らの課題として市民にどれだけ意識されているかが、不透明である。	評価理由	少子化が進む本市にあって、早期に将来を見通した学校の在り方を市民が考える機会を持つことができたことは、意義のあることであり、有効であったと考える。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見	・宇陀市立小・中学校の小規模化の進行をふまえ、計画的に課題解決を図る取組を進めることは必要なことであり、宇陀市学校規模適正化検討委員会の設置も有意義なことと思われる。保護者や教職員へのアンケートも実施されているので、唐突なことにはならないと思うが、適正化のために一部学校の統合ということになる場合は、そのことを極力早く地域や保護者に周知し、理解を得るための取組が求められる。特に、室生地域においては、短期間に統廃合を繰り返してきた経緯があり、時間をかけた地域や保護者との話し合いが重要である。 ・全国的な傾向でもあり、宇陀市でも少子化が著しく進行し、小学校、中学校の小規模化が進んでいる。「宇陀市学校規模適正化検討委員会」が設置され、子どもにとってより良い教育環境をつくるため、学校統合や小中一貫教育などより広い視点で、保護者や教員、自治会など、より多くの意見を求め、何より「未来を託す子ども」を真ん中に据えて、議論が進行することを望みたい。	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	(施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性) 点検評価員の指摘のとおり、今後とも、宇陀市の子どもにより良い教育環境を提供するため、子どもを中心に据えて、保護者や教員、自治会などから、より多くの意見を集め、時間をかけて今後の方向性を定めていく。	事業の総合評価 【 2 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・地域に開かれた学校づくりの推進、時代に対応する資質、能力の形成 宇陀市図書館を使った調べる学習コンクール実施事業		所管課	中央図書館		
事業の概要	市内の小学校・中学校の児童生徒が、学校・公立図書館の資料や自らが観察、実験するなどして得る様々な情報を活用して「調べる学習」を行うことを通じ、「自ら考え、課題を解決する力」を養い、それに伴い図書館の利用が一層促進されることを目指す。					
目標・実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「調べる学習」により、主体的に学ぼうとする意欲、自分なりのテーマを追求し「情報を活用する力」を身につける。 ・知的好奇心、語彙力、読解力、思考力の向上を目指す。 					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 6校 31作品の応募があった。 ・上位2作品を全国コンクールに出展の結果、2作品が佳作に入賞した。 ・市内全小中学校からの参加を目指していたが、残念ながら中学校からの応募はなかった。今後はコロナウィルスの影響により夏休みの短縮もあるが、一人でも多くの応募をいただけるよう努めたい。 					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
評価理由	昨年同様、2作品が全国大会佳作入賞を果たした。		子どもたちに図書館利用を促すきっかけ作りとなる。		テーマも自由であり、子どもたちの主体的な学びの機会を提供できる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、大人も子どもも何かを調べるときネットを使うことが多くなっている。そのような中、図書館で自ら資料を探し、考え、整理し、ひとつの形にまとめていくことは、将来に渡って生きる貴重な力を身に付けることになる優れた事業だと思う。しかし、宇陀市は非常に広く、図書館から遠く離れた地域に暮らす子ども達も多いので、保護者の協力が欠かせない。学校関係者だけでなく、保護者にも広くアピールしていただきたい。 ・「調べる学習」というと、簡単にインターネットなどを利用しやすい時代であるが、自ら学校や公立図書館で本を探し、必要な資料を選び出し、さらに追求するような学びを重ねることこそ、「自ら学ぶ力」につながるものと考え。これからも学校と連携して、事例を紹介し、家庭での学びに繋がるような支援の在り方を具体的に示すことで、本来の事業の目的に近づけると考える。周知の方法や校長会、教科主任者会への働きかけなど、工夫改善を望みたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌やフェイスブック、また市美術展覧会での展示などを通じ、学校関係者だけでなく、保護者にも広くアピールしていく。 ・今後も学校と連携し、事例を紹介する等の工夫をしながら「調べる学習」に一人でも多くの児童・生徒が取り組めるよう働きかけていく。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 総合体育館・総合運動場運営事業			所管課	総合体育館	
事業の概要	市民のスポーツとレクリエーションの振興を図るとともに健康増進を推進し、体育館・運動場の効率的な管理運営を行い、安全で快適にご利用いただけるように努める。					
目標・実績	体育施設の整備充実と健全な管理運営に努めるとともに、利用促進を図る。					
		平成30年度	令和元年度	増減率		
	体育館利用者数	48,795 人	46,868 人	96.1%		
	グラウンド利用者数	7,728 人	8,668 人	112.2%		
	合計	56,523 人	55,536 人	98.3%		
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 ・体育施設の整備充実と健全な管理運営に努めた。 ・施設の長寿命化のために、個別施設計画に基づき大規模改修が必要となる。 ・屋内施設は、新型コロナウイルスの影響により令和2年3月9日から6月7日まで閉館していた。					
	達成度	B	必要性	B	有効性	A
	評価理由	平成30年度と比較すると体育館利用者は減少した。		評価理由 大きな大会や集会を行う施設として利用度が高い。	評価理由 スポーツ振興と体力づくりの施設として、また、イベントや集会等の多目的利用施設として市民からの評価が高い。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	・体育施設として宇陀市の中心施設であり、文化的事業にも活用され、宇陀市民の大切な財産である。今後も有効に活用できるよう長期的計画に基づいて、改修、維持管理に努めていただきたい。体育館利用者数が、前年度と比べてやや減少しているが、人口減やコロナ禍の影響を考えるとやむを得ないと思われる。 ・平成26年度に大規模改修が行われ、市にある最大の施設として十分に利用されていると思われる。体育館の利用者が少し減少しているが、新型コロナ対策のため休館していた期間があったためと推定される。今後は、個別施設計画に基づき、施設の改修を進めることが望ましいと考える。利用度は高く、継続が望ましい。				
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 個別施設計画に基づき、計画的な改修を進めて施設の長寿命化を図っていく。 市民のスポーツの振興や健康促進のために利用促進を図る。 各施設に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により利用数が減少しているが、長期的に感染症対策を継続していくことで、安全・安心を市民に提供していくことに努める。				
	事業の総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 室内温水プール及びテニスコート管理運営事業			所管課	総合体育館	
事業の概要	市民のスポーツとレクリエーションの振興を図るとともに健康増進を推進し、室内温水プール及びテニスコートの効率的な管理運営を行い、安全で快適にご利用いただけるように努める。					
目標・実績	水泳やテニスを通してスポーツ振興と健康増進を図り、効率的な管理運営と利用者の増加を進める。					
		平成30年度	令和元年度	増減率		
	プール利用者数	41,010 人	39,627 人	96.6%		
	テニス利用者数	5,090 人	4,251 人	83.5%		
	合計	46,100 人	43,878 人	95.2%		
教育自己委員会の評価	成果と課題 ・施設整備と管理により利用者に安全・安心を提供できるよう努めた。 ・施設の長寿命化のために、個別施設計画に基づき大規模改修が必要となる。 ・屋内温水プールは、新型コロナウイルスの影響により令和2年3月9日から6月27日まで閉館していた。 ・テニスコートに関しては、新型コロナウイルス感染症拡大によるもので、平成31年3月期の利用者が516人に対し、令和2年3月は72人に留まったためである。					
	達成度	B	必要性	B	有効性	A
	評価理由	平成30年度と比較すると利用者は減少した。		評価理由 水泳を通しての健康や体力づくりに利用度が高い。	評価理由 幼児・小学生等の水泳技能向上や市民の健康と体力づくりに貢献している。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	・スポーツ振興や健康増進事業の成果は、利用者数だけで表せるものではなく、継続的な取組が大切である。しかし、利用者数が減少している理由、原因についての分析や検討も必要ではないだろうか。理由、原因が明らかになれば、有効な対応策を見出すことができるかもしれない。 ・水銀灯の生産が行われていないことやプールの外壁の痛みなど、改修面での課題を多く抱えており、個別改修計画に基づいて、施設管理の継続が必要である。新型コロナ対策のため、一定期間利用中止を行なったが、学校の授業にも使用されており、利用者も4万人以上であり、適切な改修を行い、継続することが望ましい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 個別施設計画に基づき、計画的な改修を進めて施設の長寿命化を図っていく。 温水プールについては、水温や水質検査による良好な維持管理及び安全管理に努め、利用者が快適であるように環境整備に努める。 各施設に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により利用数が減少しているが、長期的に感染症対策を継続していくことで、安全・安心を市民に提供していくことに努める。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 図書館機能充実事業	所管課	中央図書館
-----	--	-----	-------

事業の概要	市民の皆様“いつでも、どこでも、誰でも”読書を楽しむことができる生涯学習環境をつくることを目指し、図書館機能の充実を図る。 子ども読書活動推進計画の策定を受けて、幼稚園・保育所等及び小・中学校との連携強化を図り、子どもたちに図書館の魅力を発信する。
-------	---

目標・実績	幼稚園・保育所等及び小・中学校連絡会議を開催し、宇陀市の現状と課題を共有するとともに、団体貸出の利用促進を目指す。 市内で活動して下さるボランティアグループとボランティアネットワーク会議を開催し、連携強化を図り子どもたちとの関わりについて情報共有する。 【令和元年度実績】 ・蔵書冊数 142,600冊 利用人数 32,530人 貸出冊数 116,912冊 ・団体貸出 幼稚園保育所等・子育て支援センター団体貸出数…5,726冊 小・中学校団体貸出数…市内 873冊 ・ 市外394冊(御杖小・耳成南小) ・「この本よんで」(0歳児からのおすすめ絵本紹介冊子)の増冊 500冊
-------	---

教育自己評価	成果と課題 子どもの読書活動推進計画により、幼稚園・保育所等及び小・中学校連絡会議も定着し、団体貸出の利用促進や新たな学校図書館システムの導入により、各小中学校と図書館との連携を深めることができました。また、昨年度から開始し、図書館職員が幼稚園・保育所等・小学校へ出向き、子どもたちにブックトークや絵本の読み語りを届ける事業も当初1校であったが、2園からの追加依頼もいただく事が出来た。 また、「大人のおはなし会」(大人も楽しもうよ絵本・お話)(参加者35人)や、講演会「いのちの教育」(講師:うだアニマルパーク教員)、おりがみ教室等の開催により、生涯学習の一助としての取り組みをすることができた。
--------	---

達成度	A	必要性	A	有効性	B
評価理由	図書館と幼稚園・保育所等及び小・中学校等との連携が軌道に乗ってきたと感じる。さらに連携を深めるよう事業展開を考える。	評価理由 宇陀市の高齢者率も高まる状況であり、今後子どもだけでなく大人を対象としたイベント等の企画や、図書館サービスの提供の仕方について検討する必要がある。 生涯学習情報発信の拠点として、全ての市民に親しみやすい身近な図書館を目指す。	評価理由 図書館に近い利用者とはそうでない利用者ではどうしても利用率に差ができてしまう。インターネット貸出等の利用率を上げることで対応しながら、新たな図書館サービスの提供についても考えたい。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	・高齢者も知識欲があり、特に健康に対する関心が高いと感じる。例えば、資料を基にヨーグルトが心を安定させ体にも良いことを学んだ後、茶話会でヨーグルトを食べたことがある。その後、家庭においても、毎日ヨーグルトを食べるようになったという高齢者もいる。人は、高齢になっても学んで、理解したことは実行しようとする。全ての市民に親しみやすい身近な図書館運営を今後も続けていただきたい。 ・幼稚園や保育所、小学校、中学校などと連絡会議を持ち、団体貸し出しや読み聞かせなどが軌道に乗ってきていると思われる。全体の利用者数が増えたとは考えにくく、固定化しているように考える。読書や活字に触れ、心豊かに時を過ごすという魅力を伝え、地道に少しずつ広げたいと考える。 点検評価支援員による総合評価 【 2 】
--------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 ・今後も、生涯学習情報発信の拠点として、親しみやすく身近な図書館を目指す。 ・幼稚園、保育所及び小中学校の連絡会議や、ボランティア団体の方々とのネットワーク会議を通じ、互いに連携しながら読書の楽しさや必要性を広く市民に伝える。 事業の総合評価 【 2 】
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 図書返却ポスト事業			所管課	中央図書館	
事業の概要	インターネット及び電話による予約を受け、それぞれの受取場所(貸出ポイント)への配送サービス及び各地域に設置した返却ポスト、大宇陀図書館や各幼稚園保育所等・小中学校への団体貸出の回送を行う。					
目標・実績	返却ポストの利用は市民の方々に浸透してきているが、貸出ポイントの利用は一部の方の利用に留まっている現状がある。更なる利用者の増加を目指す。 令和元年度返却ポスト利用状況 返却冊数 12,728 冊					
教育委員会 自己評価	成果と課題 返却ポストの周知はされているが、インターネット予約等の活用には利用者の増加があまり認められない。利用方法を再検討し、貸出ポイントの利用拡大を図る必要がある。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	団体貸出(幼稚園保育所等)の増加は、回送業務があつてこそ対応できるものである。		評価理由 利用者の利便性向上には、ポストや貸出場所の設置は必要である。	評価理由 直接来館せずとも図書館サービスを利用できる手段として、図書館の魅力発信に有効な手段と考える。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員意見から	・図書館の開館時間内に図書館に行くことが難しい人にとっては、返却ポストは便利なツールであるので、今後も継続していただきたい。インターネット予約の取組も継続していくことで、利用者は増えていくものとする。何事も定着するまでには時間がかかるが、今後も周知に努めていただきたい。 ・団体貸し出しの増加は、回送業務があつてこそ、成り立っていると思われる。総合センターの改修工事が終わり、返却ポスト事業も従来の形に戻っているが、地道に利用拡大の工夫を継続したい。				
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 ・図書館から遠い地域にお住まいの方や、開館時間内に来館できない利用者のためにも、返却ポスト事業は継続したい。 ・年度初めに広報や図書館だより等に掲載し、インターネット予約等のサービスについて利用者への周知に努めたい。				
	事業の総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 働く子育て世代の図書館利用の充実事業			所管課	中央図書館	
事業の概要	働く子育て世代と子ども達の図書館利用の充実を図るため、中央図書館の開館時間を4～10月及び翌年3月の間、各月の10日～16日の一週間、1時間延長を実施。 7月実施の図書館フェスティバルにおいては、絵本作家による「絵本ライブ」をはじめ、映画会、講演会などの開催により、親子が共に過ごせるレクリエーションの場を創出する。					
目標・実績	・開館時間延長期間中の図書館利用者の実態を把握する。(9月は、図書館システムの更新、また3月はコロナウイルスの影響で実施できなかった。) 期間中の総利用人数 130人(1日平均4人) ・親子が共に過ごせる機会を図書館が提供することで、新規図書館利用者の確保及び親世代に幼少期からの読書の持つべき意義を浸透させる。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 ・開館時間については、延長の声は有るものの、実際の利用は少数にとどまった。次年度実施に向け検討する必要がある。 ・図書館フェスティバルには、約200名の参加があり、家族での参加も多くみられた。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由	図書館フェスティバルの開催により、図書館での様々なイベントに触れていただくことにより、図書館の魅力を参加者に発信できた。		評価理由 図書館の新たな魅力発信において、必要と考える。	評価理由 イベントを通して、親子で楽しむ機会の提供と、読書の大切さを「家庭に届ける」ために有効である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	・この事業は、働く子育て世代を対象としている点が意義深い。宇陀市が働く子育て世代を大切にしている証となり、図書館を起点として、他の分野にも広がっていくことを期待したい。必要性の高いことならば、利用人数が少なくても、継続すべきである。 ・働く子育て世代と子どもたちの図書館利用の充実を図るため、時間延長を行ってきたが、期間中の利用者は、1日平均4人にとどまっている。「図書館フェスティバル」には、約200人の参加があり、親子が共に楽しむ場の創出など、保護者への働きかけを工夫改善して魅力を発信し、継続していただきたい。				
点検評価支援員による総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 ・開館時間の延長については、必要性を考慮しながら検討していきたい。 ・図書館フェスティバルについては、絵本ライブを核とし、改良点を見直したうえで、継続開催を目指したい。				
事業の総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 寄贈資料の管理運営事業	所管課	中央図書館
-----	--	-----	-------

事業の概要	宇陀市に寄贈された約1万冊の貴重資料を宇陀市立図書館の蔵書として登録し、館内閲覧のみの貴重資料ではあるが、奈良カエデの郷ひらら内に玩槭(がんしゅく)文庫として開室。市立図書館の資料として広く周知する。
-------	--

目標・実績	登録した寄贈資料約1万冊を、奈良カエデの郷ひらら内に玩槭文庫として開室し、寄贈資料を館内閲覧していただく施設整備及び管理運営を奈良カエデの郷ひららに委託した。その結果、ひらら来館者に対し市立図書館の資料として広く周知できた。 令和元年度 玩槭文庫入場者数 332人
-------	---

教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	玩槭文庫創設当初から、資料はカエデの郷ひらら内のみの閲覧利用に限定していたが、基本的に市立図書館の資料であること、また図書館利用者の利便性の向上を考慮して、平成30年度から図書館職員が資料の現物を確認した上で、奈良カエデの郷ひららと中央図書館とを回送し、利用の向上を図っている。					
	達成度	A		必要性	A	
	評価理由		評価理由		有効性	
	玩槭文庫の貴重資料としての魅力からか、県内他館からの問合せを受けることもある。		寄贈された書籍は適切に管理運用しなければならない。		市外だけでなく市内の利用者に対しても、資料の有効活用を開始できた。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・県内他館から問い合わせを受けたとあるが、市立図書館なのだから、市民の活用が増えることを大切にしたい。今後も周知に努めていただきたい。 ・宇陀市に寄贈された貴重な資料の良さを市民に伝えることから始まると考える。良さを伝え、寄贈された本が閲覧しやすいようにすることが望ましいと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 ・玩槭文庫の本を、多くの方に閲覧していただけるよう、閲覧方法を見直し、周知を図りたい。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・家庭の教育力の向上支援 ぬくもり修学奨励資金支給事業	所管課	教育総務課			
事業の概要	経済的理由により修学困難な生徒に対して修学奨励を図るため、高等学校、大学等の入学支度金として修学奨励資金を支給する。					
目標・実績	市の将来のまちづくり活動に取り組む意欲をもってもらい、市の活性化を図ることを目標とする。 令和元年度 高等学校等 6名支給 大学等 3名支給					
教育自己評価委員会の	成果と課題 経済的に修学困難な生徒に対し、修学奨励資金を支給することで生徒の学ぶ意欲を活かす環境作りを手助けできた。家庭状況によって子どもの進学に不公平さが出ないように補助していくために今後も継続が必要な事業である。検討課題であった入学支度金が現状の金額で妥当かどうか、並びに在学中の補助を検討したが、現状の金額は他市と比較しても遜色のない金額となっており、妥当とした。在学中の補助に関しても県が実施しているものと重複することとなり必要性・有効性が乏しいため現状のままとした。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	修学困難な生徒の入学支度金として修学奨励資金を支給することで、進学しやすい環境づくりの一助となることができた。	評価理由	修学困難な生徒に対し高等学校・大学等の入学支度金として、修学奨励資金を支給し、市の教育環境づくりに貢献できた。今後も必要な事業である。	評価理由	入学支度金として修学奨励資金を支給することは、修学率の増加につながることで「人を育て文化が薫るまちづくり」の一環として有効性が高いと考える。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法は、基本的人権として、教育を受ける権利を保障しているので、教育の機会均等も保障されなければならない。この修学奨励資金支給事業は、家庭の経済状況によって教育の機会が奪われることを防ぐ方策の一つとして有意義である。今後も是非継続していただきたい事業である。ただ、令和元年度の支給実績として、高等学校等 6名 大学等 3名 とあるが、この人数が、必要とする生徒に行き渡った結果なのかどうか分析することも必要と思われる。(対象となる生徒及び保護者がこの事業のことを知らないのではないか。) ・家庭状況により、子どもの進学に不公平さが少しでも生じないよう、継続され、非課税世帯が対象となっている。人育てに関わる事業であり、学びの保障や進学しやすい環境づくりの一助として継続を望みたい。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
-----------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 家庭の経済的な理由により、修学が困難な生徒に対する支援として、必要な事業と考えており、今後も継続して事業を実施していく。また今後、必要とする生徒に行き渡っているのかどうかを分析し、行き渡っていない場合は現在の周知方法である「広報うだ」の他にも周知できるものを検討していく。	事業の総合評価 【 2 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・就学相談、教育相談、子育ての悩み等相談体制の充実 教育相談事業				所管課	教育総務課
事業の概要	臨床心理士による教育相談業務。主としては発達相談で、心理学的な見地から、保護者や教職員にアドバイスを行ったり、ニーズに応じて心理検査を行う。					
目標・実績	市内各学校・幼稚園・保育所の教員、子ども、保護者が相談を受けることが可能で、学校や家庭の枠組みを超えた子どもへの関わりや指導についての助言により、課題解消を図ることを目標とする。必要に応じて発達検査を行い、結果を保護者へ通知し、相談を進めている。専門の相談員による助言を得ることができるため利用者から評価が高く、幼稚園・保育所を卒園・卒業しても、継続して相談を受けるケースが多い。現在の利用状況を停滞させることなく事業を継続する必要がある。 令和元年度は、133件・322回の相談を実施した。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	問題を抱えている子どもたちが年々増えてきている中で、相談希望者の増加に伴い、相談員にかなりの負担がかかっている部分がある。今後も保護者や教員のニーズに応じていくためには、時間増や人員増の対応も考えていく必要がある。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 相談者が抱えている不安や悩みを学校以外の場所で専門的に相談できる機関として確立できた。		評価理由 幼稚園・保育所など早期での対応が、個別の子どもに応じた適切な就学に結び付く一方、専門の相談員によるカウンセリングにより、子どもだけでなく保護者や教員にも必要な場所となっている。		評価理由 子どもの発達に関する悩みをもつ保護者のニーズは増えており、学びの場を選択する際に発達検査は不可欠である。検査結果により保護者や関係機関も客観的に適切な就学指導を行うことができる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な見から	<p>・発達障害に対する認識が高まり、発達相談を希望する保護者や教職員が増えてきている。過去においては見過ごされていたような小さな違和感にも早々に気づき、適切な助言を受け、個に応じた支援、指導を行う体制づくりは、とても大切である。今後益々このニーズは高まることが予想されるので、発達相談の場の増や相談員の人員増について計画立案し、実現を目指していただきたい。</p> <p>・平成30年度は、112件・244回の相談を受けている。令和元年度は133件・322回の相談と大きく増えている。専門のアドバイスを受けられるため、評価も高く、卒業・卒園しても継続して相談を受けるケースもあり、事業の継続と充実が必要である。</p> <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 1 】</p>
----------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>多くの相談が複数回にわたって継続される上に新規相談が加わるため、相談件数の増加は顕著である。このため、相談員の充実が必須であり、引き続き心理士2名体制を維持し、必要に応じて相談日を増やすことができるように努める。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 1 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・適応指導教室「はばたき」、通級指導教室「ほほえみ」、カウンセラー等の充実 教育センター事業(適応指導教室 はばたき)	所管課	教育総務課			
事業の概要	市内小中学校の不登校児童生徒の自立を図り、状況に応じた適切な指導や学習の機会を設定し、学習への意欲を高めることなどにより在籍校への復帰を促す。また、保護者、教職員に対しても不登校児童生徒等に関わる相談を行う。					
目標・実績	適応指導教室に通室することで心の居場所をつくり、学習機会を確保することや、不登校の状態にある児童生徒の学校への復帰を促す。また、学校と連携を深め、状況に応じた適切な指導や学習の機会を設定し、学習継続への意欲を高める。教室以外の学習の場を設けることにより、児童生徒に選択肢を提供できる。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 令和元年度は7名の正式通室生徒がおり、週2日、3名の指導員と補助員が相談・指導、学校との連携・調整を行った結果、4名が部分復帰した。しかし、通室しているのは不登校児童生徒の一部であり、まだ多くの不登校の子どもたちがおり、その子どもたちの居場所づくりが課題である。また、現状では通室生徒の学力保障を十分にできていない部分もあり、今後、学校復帰に向けた学力保障をどのようにしていくのかも課題である。また、週2日の指導日を増やしていくことも課題である。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	長期欠席をしている児童生徒が微増する中、教職員だけの対応では解決を図れない場合や、不登校児童生徒の自立に向けた学びの場が必要である。		評価理由 通室者のあるがままを受け入れ、自分を理解してくれ、落ち着ける場所として重要な存在となっている。		
※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い						
点検評価員からの 主な意見	・適応指導教室は大切であり、必要である。自分を受け入れ、理解してくれる場があることは、心を安らかにしてくれる。しかし、過去に、適応指導教室の居心地の良さに、学校に戻る意欲、というより意思を失ってしまった子どもいたので、傾聴、受容、共感に加え、少しの助言、指導、コーチも大切にしていきたい。 ・学校に対する保護者の価値観が多様化する中、新型コロナの感染拡大により、学び方や情報伝達が大きく変化している。子どもの居場所を大切に守り、学習機会の確保と不登校状態にある児童生徒の学校への復帰を促す大事な場所となっている。教室以外の場という選択肢が提供でき、保護者に対しても多様な取組やきっかけづくりの一步として重要である。今後も、個々の実情に応じた適切な指導と学習機会の保障が望まれる。			点検評価支援員による総合評価 【 2 】		
※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結						
今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 学校へ行きにくい児童生徒の居場所・学校復帰へ向けてのきっかけづくりの場として、開室日の増加を検討する。学校復帰を目標にしていることもあり、適応指導教室内で学習指導ができるように人員配置に努める。また、適応指導教室にも通えない児童生徒については、今後導入予定の一人一台パソコンの活用も視野に入れる。			事業の総合評価 【 1 】		
※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結						

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・適応指導教室「はばたき」、通級指導教室「ほほえみ」、カウンセラー等の充実 教育センター事業(通級指導教室 ほほえみ)				所管課	教育総務課
事業の概要	小学校の通常学級に在籍しており、一部特別な指導を必要としている子どもに対して、担任以外の専門指導教員によりそれぞれの子どもの実態に応じて通級による指導を行う。保護者、教職員、児童に対しても相談業務を行う。					
目標・実績	言語障害、学習障害、ADHD等の障害により学習面や生活面で困難のある児童が自立した学校生活や社会生活を送れるように個に応じた指導する。通級児童が33名になり、児童の特性に応じた指導・相談がきている。教職員の相談や指導参観、教育相談も増え、相談件数は66件、のべ相談回数は191回となった。 現在は榛原小学校でのみ指導しているが、榛原小学校に送迎できない家庭の児童も自校で通級指導が受けられるよう指導員の増員を検討していく。					
教育自己 委員会の 評価	成果と課題 学校で集団生活を送る中で、社会性やコミュニケーションについての課題が明らかになり、相談に来られるケースが多く、指導員が適切な指導助言に努めている。子どもの言葉や発達について心配する声が多く、相談回数が増加している。今後も増加傾向にあるため、継続的な指導助言が必要である。					
	達成度	A		必要性	A	
	評価理由	通級指導を必要な子どもたちが個に応じた指導を受けることによってコミュニケーション能力等を身に付け、上級学校への移行がスムーズになった。		評価理由	言葉やコミュニケーション、社会性に困難を抱えている子どもたちが増えたので、学童期での早期対応、早期療育をすることが必要。需要は横ばいにある。	
			有効性	A		評価理由
						職員が言葉の専門家であるので、教職員と連携し、言葉の訓練を早くから行うことにより状態が改善されることが多い。特に学童期での関わりが重要であり、教職員や保護者への指導が有効である。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害を持つ子どもは、できるだけ早期に適切な支援、指導を受けることで、学校や社会に適応しやすくなる。その意味で、通級指導教室「ほほえみ」の存在価値は高い。ただ、現状では榛原小学校にしか開設されていないことが残念である。宇陀市内各校においても、通級指導教室が開設されるよう努めていただきたい。 言語障害や学習障害など、本来持っている能力を十分に発揮しきれない児童が年々増加している。担任以外の専門相談員が子どもの実態に応じて通級指導が行われているが、相談件数も回数も、年々増えている。現在は、榛原小学校のみで指導しているが、小学校に送迎できない家庭もあり、自校での訪問指導など拡大、充実させることが望ましいと考える。 					
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 通常学級と特別支援学級の間位置している通級指導教室のニーズは高く、今後も入級者数は増加していくことが予想される。現在、市内では榛原小学校のみで開室しており、他校の児童は榛原小学校に来て指導を受けているが、今後は指導員が巡回し、自校で通級指導を受けることができるように努める。					
	事業の総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・適応指導教室「はばたき」、通級指導教室「ほほえみ」、カウンセラー等の充実 教育センター事業(通級指導教室 ひだまり)				所管課	教育総務課		
事業の概要	中学校の通常の学級に在籍しているが、特別な教育的支援を必要としている生徒に対し、担任以外の教育専門員によりそれぞれの生徒の実態に応じて通級による指導を行う。保護者、教職員、生徒に対しても相談業務を行う。							
目標・実績	令和元年度より中学校にも通級指導教室を開室できた。拠点は榛原中学校にあり、専門の教員が1名在籍している。中学校の通級教室に通う生徒が今後増加する傾向にあり、教員の複数配置や巡回指導を検討していく。 令和元年度の相談件数は21件、のべ相談回数は59回であった。							
教育自己評価委員会の	成果と課題							
	中学校にも通級指導教室が開室され、認知度も高まってきている。生徒の学びの場が広がったが、現在は榛原中学校でのみの開室であるため、送迎手段など他校による通級の在り方が課題がある。							
	達成度	A		必要性	A			
評価理由	中学校に通級指導教室が開室できた。		評価理由	言葉やコミュニケーション、社会性に困難を抱えている生徒が増えたので、学童期での早期対応、早期療育をすることが必要。		評価理由	特別支援学級入級相当ではないが、通常学級で学ぶことにやや抵抗がある生徒にとって有効な選択肢の一つと考えられる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度から中学校にも通級指導教室が開室されたことは、大変喜ばしいことであるが、専門教員が1名であること、榛原中学校にしか開室されていないことなど課題が残されている。全ての子どもたちが、個に応じた支援が受けられ、生涯にわたって自立していけるよう残された課題の解決に努めていただきたい。 令和元年度より、榛原中学校を拠点に通級指導教室が開室できている。在籍生徒数は14名であるが、認知度の高まりと小学校の実情を考えると今後も増加傾向が続くと予想される。他校の生徒の通級手段の確保やスタッフの拡充など、体制の充実が望まれる。 					
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 小学校同様、中学校においても通級指導教室のニーズは高く、今後も増加傾向が見込まれる。また、設置校が榛原中学校のみであることから、巡回指導ができるように専門の指導員の確保などの環境整備に努める。					
	事業の総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・地域で取り組む児童虐待防止と「見守り」活動の推進 青少年育成支援事業				所管課	生涯学習課
事業の概要	青少年の規範意識や社会性の低下が社会現象となり、その要因として親子のふれあいや信頼関係の希薄化、家庭や地域の教育機能の低下等がある。学校、家庭、地域が一体となり、地域ぐるみで子育てをする体制を構築することでこれらを解消し、子ども自身の力を伸ばし、青少年の健全育成と地域の連帯、ふれあいを深めることを目的に広報、啓発活動・有害環境浄化活動を実施。					
目標・実績	未来を担う子どもたちを健やかに育むため、地域社会全体で有害環境から守る体制をつくり、青少年の健全育成に取り組む。 令和元年11月1日に街頭啓発活動を各学校と連携し実施した。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	街頭啓発活動として、青少年健全育成に関する標語(市内中・高生から募集)を印刷したポケットティッシュを配布し、健全育成の周知に取り組む。関係団体を所管したり、さまざまな支援活動を実施する青少年センターの設置が検討課題となっている。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
評価理由	街頭啓発活動や有害図書の販売時の指導を実施。各4地区健全育成協議会においても、あいさつ運動・校外指導等に取り組んで頂いた。		評価理由		青少年の自主性、社会性や正義感、倫理観をもった豊かな人間性を育むため、発達段階に応じた必要な配慮を行う。	
評価理由			評価理由		地域社会全体で有害環境から青少年を守るための体制づくりが健全育成につながる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な見かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成は、平和で民主的な社会を継続していくためにも重要である。規範意識の低下が課題の一つとなっているが、規範意識の基は公共心だと思う。日常的にゴミのポイ捨てを見て育てば、ゴミはポイ捨てして良いものだと思ってしまう。日常的に信号無視を見て育てば、信号無視をしても良いと思ってしまう、公共心は育たない。規範意識も低下する。青少年育成の取組は、青少年を対象とするだけでなく、周囲の大人が襟を正すことも必要不可欠であることを啓発したいものである。 ・保護者の生活が不安定化したり、地域社会との関わりが希薄化したりする傾向が進む中、子どもの食生活や友人関係、いじめなど様々な社会問題が起こっている。そうした中、標語募集の取組や街頭啓発、地域での見守りなど様々な活動が行われているが、今後はさらに、関係団体を所管したり、支援活動を実施したりする活動の拠点づくりが課題になると思われる。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全を脅かす様々な社会問題がある中で、いかに地域社会全体で健全育成を進めることができるかを検討しながら、青少年健全育成協議会等諸団体との連携により、市民への啓発活動を積極的に進めていきたい。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・地域で取り組む児童虐待防止と「見守り」活動の推進 子ども活動支援事業		所管課	生涯学習課	
事業の概要	地域社会力を生かし、地域ぐるみで学校をサポートするボランティア活動を支援することによって、子どもたちの学習補助や環境の整備、登下校の見守りなど子どもたちが安全で安心な学校生活がおくれる環境を整える。				
目標・実績	地域学校協働活動事業: 登下校安全指導、学校内環境整備(美化活動) 放課後子ども教室 : 平和学習、文化体験、工作教室 等 学習補助(地域未来塾): ボランティアによる学習支援(放課後、夏休み)				
教育自己 委員会 の 評価	成果と課題				
	市内全小中学校において、それぞれの学校の取組みを地域の方々と協働して実施。スクールバスの運行時刻等により、放課後に行う事業に時間の制限がある。地域の方々が多数参画して頂ける取組みが必要である。				
	達成度	B	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	市内全小中学校が事業を実施したが、コーディネーター(リーダー的協力者)の確保が課題である。		地域に開かれた学校づくりを目指し、地域の方々と関わることにより、子供たちが安全・安心な学校生活を行うことができる。		地域の方々が学校運営に参画することで、子どもたちが地域社会とのつながりを持つことができる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検 評価 員 から の 主 な 意 見	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを見守り、支え、教育する活動は、家庭、学校、地域が協力し合うことで、より有効に機能する。「地域ぐるみで学校をサポート」「地域に開かれた学校」これを実現するためには、まず学校と地域が協議を進める場が必要となる。一度に多くを望まず、具体的な成果が見えることを一つずつ着実に取り組んでいただきたい。 地域の持っている力・人材・施設などを生かし、学校をサポートし、「地域ぐるみで子育て」をしようと学習支援や見守り、環境整備などが進められている。学校教員の職務の多忙化が叫ばれる中、コーディネーターやボランティアの確保、スクールバス運行との調整など多くの課題があるが、協議の場を確保して、地域に合うサポートの仕方を探ることが望ましいと考える。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
--	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域と共にある学校づくり」を進めるため、各学校において「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」と「地域学校協働活動」を一体的に推進できるよう環境を整えていきたい。 <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・地域で取り組む児童虐待防止と「見守り」活動の推進 子どもフェスタ事業		所管課	生涯学習課		
事業の概要	あそび体験を通じて、仲間づくりや参加者の交流を深めるとともに豊かな感性を育み、未来を担う宇陀市の子どもたちの健全育成を図る。					
目標・実績	事業実施に当たっては、企画立案から実施までを実行委員会が行っている。 実施内容は、紙飛行機大会、クラフト、軽スポーツ体験、紙芝居など様々なコーナーを準備。 令和元年9月8日(日)に開催し、子ども582人 大人455人 計1,037人の参加を得た。 会場スタッフとして、275名の協力のもと運営を行った。(第11回目)					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 令和元年は、1,037人の参加により、大人も子どもも一緒になって多くの方々がフェスタを楽しむことができた。 開催中、ペットボトルキャップを集め、ポリオワクチンを海外へ届ける事業を実施。 ボランティアの協力が年々減少傾向である。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	実行委員会(市民主導)で大人も子どもも楽しめるよう企画立案し、多数の方々に参加していただいた。	評価理由	市内の子どもたちが一堂に会するイベントであり、地域の方々・高校生等と交流できる他に類のない事業である。	評価理由	体験を通じて仲間づくりや様々な人との交流が図れ、健全な心の醸成の一助となっている。 (榛生昇陽高校の学生がボランティアとして参加)

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	<p>・大勢の人が協力し合って創り上げている子どものための一大イベントで、しっかり定着してきている。今後是非継続していただきたい事業である。しかし、会場から遠く離れていたり、保護者の仕事の都合だったりして、参加したくても参加できない子もいるのではないかと。スクールバスを活用するなどの工夫について検討していくことも必要ではないだろうか。</p> <p>・実行委員会で、大人も子どもも楽しめるように企画立案され、1,000人以上の参加があり、多くのボランティアに支えられており、県内でも類をみない事業となっている。遊び体験を通して、なかまづくりや交流を深める事業として継続されており、新型コロナ対策が求められる中、少人数分散形式などの工夫により継続されることを望みたい。</p> <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
--------------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>・子どもフェスタ事業は、子どもたちが実体験できる機会やコミュニケーション力の向上を図る機会として、有意義なイベントであるため、多くの子供たちが参加できるよう実行委員会と協議していきたい。</p> <p>・事業運営に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期して運営できるように実行委員会と検討・協議を行いながら進める。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり 公民館管理運営事業		所管課	中央公民館		
事業の概要	宇陀市民一人一人が、心豊かに健康で生きがいのある人生を過ごすために、生涯にわたって主体的に学習を継続することが求められていることを踏まえ、生きる喜びを分かち合える生涯学習社会の構築を目指して、地域課題や市民の学習ニーズに即した学習機会の提供を図るとともに、地域に根ざした公民館活動を推進する。					
目標・実績	身近な学習や文化活動が、誰でも気楽に活動できるような環境整備に努め、文化的活動の機会や地域住民と公民館活動をつなぐ情報提供に努めるとともに、各種団体と協力・連携し地域の教育・文化の振興を図る拠点とする。また、自主グループの育成を推進し、各分館の施設利用率の増加を図る。 ・平成28年度使用料(4分館) 3,388,675円 ・平成29年度使用料(4分館) 2,363,435円 ・平成30年度使用料(4分館) 3,416,905円 ・令和元年度使用料(4分館) 3,237,010円					
教育自己評価委員会の	成果と課題 公民館の施設利用のほとんどは自主グループ及び定期利用団体であり、利用率は概ね順調である。さらなる利用率向上を図るため自主グループの育成に努めるとともに、現グループの活動を支援する必要がある。 ・平成28年度自主グループ登録数 38団体 ・平成29年度自主グループ登録数 38団体 ・平成30年度自主グループ登録数 42団体 ・令和元年度自主グループ登録数 40団体					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	適切な施設の維持管理及び運営ができたと考える。しかしながら、老朽化に伴い年々修理箇所が増えてきている。また新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月より貸館を中止した。	評価理由	市民が「集い・学び・繋がる」機会と場の提供のため、公民館の必要性は高く、更なる施設の環境整備に努める。	評価理由	実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、市民の教養の向上、健康増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与できたと考える。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<p>・宇陀市民一人ひとりが心豊かに健康で生きがいのある人生を過ごすために、公民館の果たす役割は大きい。施設の老朽化は避けられないので、計画的に改修を進めていただきたい。また、事業の概要に、宇陀市民一人ひとり、地域に根ざした公民館とあるが、宇陀市は広く、4分館から遠く離れた地域で暮らす市民も多い。そういう市民への取組についても検討していただきたい。公民館運営のさらなる充実は、住みやすい宇陀市づくりにつながっていくものとする。</p> <p>・3月より、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、貸館を中止したが、使用料は概ね順調である。自主グループや定期利用団体が継続的に利用していると思われる。高齢化に伴う運営上の課題を抱えており、生活文化の向上や社会福祉の増進のためにも支援が必要であるとする。</p> <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
--------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 施設の老朽化については、生涯学習課を中心に「宇陀市スポーツ施設等個別施設計画」を今年度中に策定し、その中で公民館施設の将来を踏まえた今後10年の計画づくりを行っています。 また、今回の新型コロナウイルス感染拡大により、現在も自主グループの活動を自粛されたり来館を控える市民も多いことから、宇陀チャンやインターネット等ICTを活用した講座等も公民館活動の手段の一つとして検討し、距離的な問題があっても分館になかなか来れない方にも対応したいと思います。しかし基本的には市民と市民、市民と職員が顔と顔を合わせて「まなぶ」「つどう」「つながる」公民館運営を継続して行っていきたくと考えています。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり 各種講座・教室事業	所管課	中央公民館
-----	---	-----	-------

事業の概要	市民のニーズに合った講座の充実を図り、自主グループ・リーダーの養成とまちづくり・まちおこしなど地域社会参加の促進を図る。「定期講座」は各分館にて開催し、1年を通じて初歩から応用までを学習する。「市民教養講座」、「入門講座」、「生涯学習講座」については各分館を会場とし、各テーマを設けて、知識の向上、趣味の輪の拡大、健康の保持や生きがいづくりを目指した講座を開設。
-------	---

目標・実績	社会教育法に基づき、市民のために実生活に即した教育・学術・文化に関する各種の事業を行い、市民の教養向上、健康の増進を図り生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。 参加者述べ人数 1,548名
-------	---

教育自己評価委員会の	成果と課題	各講座・教室では、応募者が定員以上になり抽選を行うものもあるが、反面、応募者が少なくやむなく中止したものもあった。人気の定期講座は開催回数を増やし、参加人数が少ない講座については、内容の見直しや開催時期の変更をするなどの工夫を行い、必要課題と要求課題のバランスを取ることが必要と考える。近隣市の講座の動向や市民が求める講座の把握に努める。また、周知についても広報誌や宇陀市自主放送以外にも宇陀市公式SNS等の活用など、市民への周知の方法を検討し、より多くの参加者を得るよう努める。今後さらに幅広い年代の受講生を対象とするため、時代に合った講座や開催時間、PR方法の検討が必要と考える。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	幅広い年代層に興味を持っていたが講座内容、開催日時の検討が必要。また、参加者が少ない講座については様々な方法の周知を行い、随時募集を行うことも検討する。	評価理由	社会教育法に基づく公民館活動を達成するため必要と考えるが、適切な講座数、募集人数並びに開催回数の見直しも必要と考える。	評価理由	講座及び学級等を開催することにより、市民の教養向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉等の促進を図ることができる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・宇陀市の人口から見て各講座・教室への参加者が延べ1,500人超は、本事業の目的が一定果たされていると考える。参加人数が少ない講座もあるということだが、市民にとって必要な内容ならば、たとえ参加者が少なくても、様々な工夫を行いながら継続していくべきであろう。今後、さらに高齢化が進み、移動が難しくなると、市民が出かけるのではなく、公民館が来てくれる、つまり、出前講座、出張講座のような形式も検討する時期が必要となる。 ・人気の定期講座の回数を増やしたり、開催時期を平日から土曜や日曜に変更したり、参加者を随時募集したり、柔軟な形で運営しているのがよいと考える。市民の興味関心をふまえ、周知の方法を検討し、工夫改善して継続することが大切であると考えます。
点検評価支援員による総合評価 【 2 】	

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>せっかく実施する講座でも、人数が集まらない問題がどこにあるのか、一つの講座を検討する段階で、年齢層などのターゲットを明確にして開催する曜日や時期を検討すべきと考えています。</p> <p>また、急速に進む高齢化などの問題は、どの地域も共通の課題であり、例えばデジタルデバインドという言葉があるように、高齢者がデジタル機器を使いこなせないために何かの生活サービスが受けられないなど、高齢者が取り残されないための公民館としての入り口の講座として、高齢者にターゲットを絞ったスマートフォンの使い方などの講座に取り組んでいきたいと考えています。</p>
事業の総合評価 【 2 】	

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり 社会教育推進講座			所管課	中央公民館	
事業の概要	社会教育の推進及び公民館と地域のつながりを深めるため、市内各地域のまちづくり協議会が、地域の課題を解決するために開催する講座や、研修会等に講師の紹介あるいは講師を派遣し、予算の範囲内において講師派遣の費用を支援する。					
目標・実績	市内にある22の全てのまちづくり協議会が事業実施し、地域の課題に取り組むとともに地域の活性化につなげる。 平成30年度実績 15団体18事業 延べ1,225人が参加 令和元年度実績 13団体19事業 延べ1,277人が参加(1団体は新型コロナウイルスの影響により中止)					
教育自己評価委員会の	成果と課題 講座や研修会の進め方や内容等についてはまちづくり協議会まかせになった。今後は公民館としても積極的に企画段階より事業に参画していきたい。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由	多くのまちづくり協議会が事業実施したが、全てのまちづくり協議会が実施できるよう、まちづくり支援課と連携し、啓発に努める。		評価理由	地域と公民館がつながり、社会教育を推進するため必要性は高い。	
				評価理由	各地域のまちづくり協議会がそれぞれの地域の課題に取り組み、これを解決するための講座や研修会、イベントを実施し地域の活性化につながっている。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題に取り組み、地域の活性化を図るという目標は、意義深いと思われる。しかし、各まちづくり協議会には、それぞれの地域の特性や課題があり、施設や人材にも相違がある。全てのまちづくり協議会が、それぞれの課題を着実に解決していけるよう、予算面だけでない公民館からの支援を進めていただきたい。 ・市内にある22全てのまちづくり協議会が事業実施しているが、新型コロナの影響もあって、13団体19事業にとどまっている。スマートフォンの利用など情報を活かしたり、地域住民限定の事業など、地域課題とつなげた取組の継続が望まれる。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>社会教育推進講座は公民館事業としては最も地域の皆さんに近いものであり、いわゆる「お金(講師料)だけ出す」だけでなく、もっと地域に「出向いてる」感を出し、公民館が関わって「支援している」感を出したいと考えています。今年度は残念ながらコロナウイルス感染拡大の影響のため、各まちづくり協議会は「集まる」ことを避けておられると見られ、現在のところは申請1件のみとなっています。しかし、この講座がいわゆる「出張・出前」講座に近いものとして公民館は位置付けているところから、ご意見でもあるように、地域の課題とつながるような取り組みを今後も行っていきたいと考えています。</p>
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり 市美術展事業			所管課	生涯学習課
事業の概要	美術を愛する市民の創作活動の成果を発表する場として、絵画・書芸・写真・彫塑工芸部門を設け、市美術展覧会を開催。				
目標・実績	令和元年11月2日(土)～11月5日(火)の間、「奈良カエデの郷ひらら」において実施。 出展数43点、来場者数延べ753人。参与作家の協力による作品の展示4点。 別室にて、文化会館・公民館活動の作品、園児の作品、大宇陀・榛原中学校書道部作品、図書コンクール作品を展示。				
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	出展作品とは別に、文化会館・公民館活動作品・園児作品・中学生書道作品・図書コンクール作品を展示。 出展数減少により、市美術展覧会の在り方の検討が必要である。				
	達成度	C	必要性	C	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	出展数及び来場者が減少傾向。募集部門・開催の在り方、又は市文化協会主催の展覧会に事業の委託を検討。		文化芸術活動は創造力や表現力を高めるため必要であるが、奈良県美術展覧会の開催時期とほぼ同じであり、県展に作品を出展される方が増えてきている。		文化芸術作品の鑑賞は、創造的な「思考力、判断力、表現力等」の育成、心豊かな人間形成につながる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員意見から	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術活動は、人の生活、人生を豊かにする。映画を見ること、テレビを見ること、読書をする、自ら創作活動をする、もしこれらを禁じられれば多くの人が落胆するだろう。文化芸術活動は生活に欠かせないものと言える。出展数や来場者が減少傾向にあるとしても、市民の文化芸術活動の場の一つとして、本事業は継続していくべきである。 会場を「奈良カエデの郷ひらら」に変更して、2年。出展数も半分となり、来場者も2割ほど減っている。文化会館や公民館、園児、中学校書道部の作品など、工夫改善されたところもあるが、開催時期や展示期間、展示内容など大きな見直しが必要ではないかと思われる。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の文化芸術活動の発展に寄与するため、文化協会及び公民館等の協力のもと開催内容等を工夫しながら、作品発表の場を提供していきたい。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 文化財保存修理等補助事業		所管課	文化財課	
事業の概要	国・県・市指定文化財(以下、「指定文化財」という。)の所有者(個人・宗教法人・自治会)が行う防災設備点検等経費の負担軽減、所有者が行う建造物等の保存修理経費の負担軽減、所有者が行う防災設備設置・収蔵庫建設・環境整備(草刈、庭木の剪定)等の経費の負担軽減、また市指定民俗文化財を維持伝承していくため、後継者を育成するための経費等の負担軽減を図ることを目的に、これら文化財保護に関して補助金を交付する。				
目標・実績	指定文化財の保存修理、防災設備設置・点検、環境整備、収蔵庫建設、民俗文化財伝承等を実施した団体又は個人に対して補助金の交付を行い文化財の保護を推進する。 (令和元年度 保存修理 4件・防災設備点検等 10件・環境整備 2件・小修理 1件・民俗文化財伝承事業 3件)				
教育委員会 自己評価 の	成果と課題				
	指定文化財の保護・管理等の諸事業の実施により、適切な状態に保たれている。点検等により不具合が発見されれば修理を行い、毎年の防災設備の点検等は消防法の規定に基づき実施され、機器等は良好に作動している。今後も、指定文化財の適切な保護・管理を行っていくため、国、県、所有者と連携しながら継続していく。				
	達成度	A	必要性	A	有効性
評価理由	評価理由		評価理由		
防犯設備の整備をされた寺社も増え、所有者と共に指定文化財の適切な保護・管理等ができた。	指定文化財は、その重要性に鑑み、適切な管理を行うために様々な法的規制があり、指定文化財の保護・管理を適正かつ円滑に実施するには、特別な経費を要する。事業実施に当たり、所有者の負担軽減を図ることは、文化財の保護に必要である。		指定文化財の適切な保護・管理が実施でき、貴重な文化財を後世に伝えていくことができる。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・宇陀市には多数の文化財があり、その全てを日々点検していくことは多くの労力を要し、困難なことであるため、この文化財保存修理等補助事業についての周知の方法を工夫するなどして、所有者や地域の人からの情報収集も大切にしていきたい。市民の中では、この補助事業の対象となる文化財の範囲等についても認識されていないように思われるので、修理の必要を感じても、報告や要望を控えている場合があるのではないだろうか。 ・文化財の価値を市民にもわかりやすく周知し、計画的継続的に保存修理や防災設備点検、環境整備、民俗文化財伝承など、補助事業の継続に尽力いただきたい。年次ごとの積み上げが設備の整備された寺社の増加につながり、宇陀市の魅力を保護することに貢献していると考える。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
----------------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>指定文化財を補助金制度を活用しながら防火設備等の設置を推進していく。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 薬の館管理運営事業		所管課	文化財課	
事業の概要	市民の歴史・文化意識の向上を図るとともに、伝統的建造物に対する理解を深めることを目的とし、内部公開を兼ねた展示施設『宇陀市歴史文化館「薬の館」(宇陀市指定文化財)』の管理・運営を行っている。 建物の公開・管理・運営等が主な業務で、シルバー人材センターに管理委託している。建物の修理等は文化財課が実施している。				
目標・実績	松山地区の代表的な商家町屋で、薬関係の展示施設となっており来館者が多く訪れる。生涯学習の教材として小学校等の授業にも活用されている。宇陀松山の歴史を学び、伝統的な空間を体感できる施設である。 薬の館(旧細川家住宅)は、江戸時代末期の建築と推定される。細川家は薬問屋であり、薬商として「人参五臓園」「天寿丸」という腹薬を販売。館内では薬関係の資料を中心に展示し、大型の鍾馗像の寄贈を受け展示している。有料公開{入館料大人310円小人150円(団体 大人200円小人100円)}。令和元年度の入館者数は、2,328人。				
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	月・火の休館日においても、視察団体等の予約が入れば特別開館し、来館者数の確保に取り組んでいる。 入館者数を増やすための展示変えやイベントが必要であると感じている。				
	達成度	A	必要性	A	有効性
評価理由	評価理由		評価理由		
多くの方々が来館し、見学していただいている。大型の鍾馗像の展示は好評を得ている。	当施設は、重要伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物でもある。歴史を学ぶ施設、伝統的な空間を体感できる施設は少なく、公開する必要がある。		多くの方々が来館し、当館の薬の歴史を学んだ。必要に応じて管理人が館内の案内や説明を行い、理解を深めてもらっている。また、他市町村等からの視察や市行事での施設見学会も行っている。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に中に入って体感できる伝統的建造物は貴重であるので、今後も維持、管理に努めていただきたい。なお、松山地区の中の「薬の館」であるという観点で「薬の館」の管理運営に臨むことも大切であろう。松山地区全体の保存と発展につながることを期待したい。 ・宇陀の地は古くから薬猟の地として有名であり、製薬会社の創業につながる事業家が多く輩出された地でもある。その代表的な建物のひとつとして、薬の館があると考え。大型の鍾馗像の展示が近年行われたが、このような展示の工夫やイベント事業との連携など、さらに改善を重ねたいと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>重伝建地区に訪れる観光客が「薬の館」まで足を運んでくれるよう旧中尾邸を活用して研究する学生等とともに現地を見てもらい展示に工夫を加えていく。</p>
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 重要伝統的建造物群保存地区保存事業		所管課	文化財課
事業の概要	周囲の環境と一体をなして歴史的な風致を形成している伝統的な建造物群を「伝統的建造物群保存地区」、国は特にその価値が高いとして宇陀松山地区を奈良県で2番目の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された。国選定は平成18年7月5日・指定面積17ha・保存事業期間 平成18年度～。 歴史的町なみの特性を維持回復するため、地区内の伝統的建造物の修理及びそれ以外の建造物の修景に対して補助金の交付を行い、防災施設等の整備も行う事業である。			
目標・実績	歴史的風致を構成する要素である伝統的建造物の中でも「特定物件(所有者の保存同意を得た伝統的建造物)」を増やすことが必要不可欠であり、また、伝統的建造物以外の建物の修景も景観の保全には必要であり、これらの修理・修景補助の件数を増やし、歴史的な町なみを保全する。住民参加型の検討会を開催し重伝建地区の安全・安心を図る防災機器(消火器)を設置した。また、松山地区の代表的な建物の大宇陀福祉会館の耐震改修工事を実施し、松山地区入口にある旧中尾邸の耐震化改修工事に着手した。令和元年度の町家の実績は、修理7件を実施。			
教育自己評価 委員会の	成果と課題 特定物件(伝統的建造物)の指定は所有者の同意が必要であることから、町家の修理事業と同時に特定物件指定を受ける所有者が増えている。修理事業の相談時に所有者へ特定物件指定を働きかけている。大宇陀福祉会館耐震改修工事が終了。防災計画に基づき、松山地区住民と協働で防災設備整備事業を進め、消火器の設置が完了した。町家の修理事業の希望者は増えてきているが、国の補助金等は要望額より低く抑えられている。 宇陀市松山伝統的建造物群保存地区における建築基準法の制限の緩和に関する条例を制定した。			
	達成度	A	必要性	A
	有効性	A		
	評価理由 町家の修理事業は予定通り完了。また、防災計画に基づき防災設備(消火器)を整備した。大宇陀福祉会館耐震改修工事も終了した。	評価理由 修理・修景が必要な物件の数は多く、歴史的景観の保全には町家の回復が必要不可欠である。老朽化した町家は、修理により安全・安心な住居となり、生活環境の向上が図れている。木造建築物が多くを占める地区は、防災計画に基づく防災施設整備が必要であり今後も進める。	評価理由 「町なみの景観が良い」と来訪者も増えてきており、メディアの取材や行政視察も相次ぎ、今後の集客にも期待ができる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・町家の修理事業の希望者が増えてきているということは、住民の方の保存事業に対する意識が高まっていることの証であり、防災機器の設置や建築基準法の制限の緩和に関する条例制定など、具体的な取組が進められた結果とも言える。限られた予算だとは思いますが、今後も継続していただきたい。 ・松山地区の代表的な建物である大宇陀福祉会館耐震改修工事が完了し、旧中尾邸の耐震化改修工事が進められている。町家の修理事業と特定物件指定を受ける方も増えてきている現状にある。建蔽率の緩和を含めた条例の制定なども行われており、事業の推進と継続が必要と考える。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
--------------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金制度を活用しながら歴史的町並みの景観を維持するため町家所有者と協議していく。 ・旧中尾邸の耐震改修が終わり、観光案内をはじめ、松山城に関する情報発信の場所として、また、学生等の地域研究の活動拠点等に利用していく。 <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 埋蔵文化財発掘調査事業			所管課	文化財課
事業の概要	市内遺跡の発掘調査、個人の開発行為に先立つ事前の発掘調査、遺跡保存を目的とした範囲確認調査、過年度に実施した発掘調査の調査成果整理、市内遺跡の分布調査、出土遺物保存処理、公共工事に伴う事前の発掘調査等を実施し、埋蔵文化財の保護対策を講じる。				
目標・実績	遺跡の発掘調査を行い、保護対策を講じるとともに記録を行い、後世に郷土の歴史を伝える。 下城・馬場遺跡で出土した遺物整理作業(整理箱8箱)を実施。宇陀地域最大規模の不動塚古墳群の測量と発掘調査を実施した。宇陀松山城跡から出土した鬼瓦の復元模造を作成した。				
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	発掘調査により貴重な埋蔵文化財(遺跡)の保護対策(遺跡の記録・遺物整理等)を講じることができた。市内には、未調査の埋蔵文化財等が多数あり、今後も計画的な発掘調査が必要である。鬼瓦の模造の作成により、来訪者等への出土遺物の啓発等が容易になった。				
	達成度	A	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	宇陀地域最大規模の不動塚古墳群の調査に着手した。宇陀松山城から出土した鬼瓦の模造を作成できた。		発掘調査等により出土した埋蔵文化財は、郷土の歴史や当時の生活環境を知るうえで重要な史料となる。		埋蔵文化財(遺跡)の保存・整理は、郷土の歴史を後世に伝える重要な業務である。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<p>・埋蔵文化財の調査、保存、整理の重要性について、更に理解が深まるような取組を工夫していただきたい。本年は新型コロナで中止になったが、東榛原まちづくり協議会では、郷土の歴史についての冊子を作成し、それを教材として、毎年研修会を開催していた。埋蔵文化財についても、このような研修会を各地で開催できることを望む。</p> <p>・宇陀地域最大規模の不動塚古墳群の測量と発掘調査が行われたり、宇陀松山城跡から出土した鬼瓦の復元が行われたりしている。学校教育や市民講座などと連携して、郷土の歴史を後世に伝えていく必要があると考える。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き不動塚古墳の発掘調査を継続する。 発掘された遺物の展示場所を見つけ、期間限定で展示していけるように進めていく。 	事業の総合評価 【 2 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 街なみ環境整備事業		所管課	文化財課		
事業の概要	松山地区の「松山らしさ」の再確認と新たな展開に向けて、「伝統的な街なみ」や「伝統的な暮らし」に着目するまちづくりを進め、総合的なまち活力の再生を図る。 平成13年度より令和2年度までの20年間で、歴史的な街なみの骨格となる道路を中心に地区内(約35ha)の生活環境施設、公園、防災施設等の整備事業を実施し、歴史的、生活的、自然的な環境を生かした、住民の発意と創意に基づく街なみを形成する。					
目標・実績	松山地区の特性に応じた個性的で質の高いまちづくりとするため、道路と電柱の美装化・街路灯整備・公園整備・生活環境施設整備・防火施設整備等の住環境の整備改善を行う。 (宇陀市大字陀松山地区 整備区域面積 35ha) 平成30年度より春日門跡小公園整備事業に着手し、令和元年度に終了した。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	街なみ環境整備事業により、横断電線類の地中化、道路の美装化工事により、質の高い古い街なみを形成することができた。 松山地区の主要道路である松山通り道路美装化工事により、街なみ景観の改善ができた。春日門跡小公園整備が完了して街なみ環境整備事業は終了する。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	松山通りは狭隘な地域の主要道路であるが、地元住民の協力により事業実施することができた。	評価理由	横断電線の地中化と道路の美装工事は、松山地区の個性的で質の高い歴史的なまちづくりに必要である。	評価理由	道路等の美装化は、町家の修理とともに歴史的な街なみ環境を生かし、住民の発意と創意に基づく景観を形成することができる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検 の 主 な 意 見 から	<ul style="list-style-type: none"> 多くの労力と多額の予算をかけて環境整備された地域が10年後、20年後に荒れ果てていくことが稀にあるので、整備事業は終了しても、現状を維持、保全していく取組は続けていただきたい。 江戸時代末期から明治時代にかかる街並みに着目した街づくりを20年間にわたり、事業を進めてきた。春日門跡小公園整備事業も終了となった。この事業は終結するが、町家修理の継続など重伝建事業などに引き継がれるものとする。 	点検評価支援員による総合評価 【 5 】
-----------------------------------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>事業の終了。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 5 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 史跡宇陀松山城跡保存整備事業			所管課	文化財課
事業の概要	宇陀松山城は、豊臣政権のもとで、大和郡山城・高取城と並ぶ大和支配の拠点として誕生した。残念ながら城は、30年という短い期間でその役割を終えた。宇陀松山城跡の特徴として、城郭全域にわたって城割(しろわり)を受けていることが挙げられる。現在、地表観察等で確認できる城跡の状況は、城割後の姿であり城郭構造を詳細には反映していない。 宇陀松山城跡の史跡指定地は67,667㎡であり、そのうち総石垣づくりの中心郭部分22,450㎡の公有地化を実施している。整備範囲は公有地化を行った範囲を中心に城跡部分を対象とする。				
目標・実績	宇陀松山城跡の特徴として城割を受けていることが挙げられ、遺構内容・城割の状況と範囲・石垣等の崩落箇所の保全・修復等の関係を十分に検討しながら保存整備と城跡麓までの登城路整備を進めている。 平成29年10月の台風21号の豪雨により、城跡斜面が被災したため、平成29年度以降の城跡保存整備事業は一時中断することとした。				
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	平成29年10月の台風21号による豪雨により城跡南面の斜面2箇所が大きく崩落した。また、史跡地内9箇所も法面が被災したため、城跡保存整備工事は一時中断し災害復旧事業を優先して進める。登城路整備事業は完了したが、災害復旧工事用道路として当分の間は使用することとなる。				
	達成度	A	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	城跡麓までの登城路整備事業を完了することができたが、今後は災害復旧工事用道路として活用する。		宇陀松山城跡は、宇陀市のシンボルとして位置づけられており、重要伝統的建造物群保存地区に選定された松山地区の城下町と一体的に整備する。		松山重要伝統的建造物群保存地区と一体的に整備し、歴史資源として観光施策との連携を行い、より多くの集客を図っていくことができる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	・宇陀松山城は宇陀市の貴重な歴史遺産ではあるが、保存整備より、災害復旧が優先されるのは当然である。一日も早く被災箇所が復旧され、再び城跡保存整備事業に取り組めるよう、必要な用地交渉等に努めていただきたい。 ・平成29年10月の台風21号による豪雨により城跡南面の斜面が大きく崩落した。この城跡は、豊臣政権のもとで、大和郡山城・高取城と並ぶ大和支配の拠点として誕生したという観光拠点となりうる城跡である。城跡保存整備工事は一時中断して、災害復旧工事を優先しなければならない。工事を進めるためには、用地交渉や地元協力が欠かせないが、観光客を呼び込める歴史資料として活用できるよう、年次的に整備を進めていただきたい。				
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 災害復旧工事が令和6年度までかかる見込みである。その間に史跡松山城跡整備委員会で整備・活用について協議していく。				
	事業の総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 史跡森野旧薬園保護事業				所管課	文化財課	
事業の概要	<p>享保14年(1729年)幕府から官園において栽培していた種苗が下付され、薬草等を植えたことにより薬園が始まる。大正15年には、国史跡に指定され史跡地内の桃岳庵や石水亭などの建造物も遺存し、古くから地域に自生していた有用植物が生育し、生態学的な価値も高く薬園としての旧態が良く保たれている。</p> <p>しかし、近年は環境悪化が進み建造物は老朽化による傷みも著しく、また、獣害による植物の衰退、近縁種との交雑による種の消失等の荒廃が進行しつつある。江戸時代から引き継がれてきた当園の適切な保存・管理を行うため、保存活用計画に基づき保存事業を実施する。</p>						
目標・実績	<p>国史跡森野旧薬園が有する特徴や価値を良好な形で維持するために、旧薬園の沿革・既往調査資料・現地踏査による現状の把握、史跡指定範囲の敷地測量を実施。有識者による策定委員会を開催し、旧薬園がもつ本質的価値を明らかにした保存活用計画に沿った旧薬園の保存事業を実施する。</p> <p>1749年に建立された桃岳庵改修工事が終了し、更に1798年建立の賽郭祠堂の現況図を作成した後、実施設計を行う。</p>						
教育自己評価委員会の	成果と課題						
	<p>旧薬園の既往調査資料の整理、現地調査により旧薬園の施設管理や薬草管理等の問題点が策定委員会で議論され、保存活用計画が策定されている。</p> <p>適正管理は森野旧薬園だけではなく、行政や地域住民等がどのように関わり保存・管理を進められるかが今後の大きな課題である。</p>						
	達成度	A		必要性	A		
評価理由	森野旧薬園保存活用計画に基づき、桃岳庵改修工事が終了。次に賽郭祠堂の実施設計に着手する。		評価理由	旧薬園を良好な状態で維持するため保存活用計画に基づき、歴史的建造物等の計画的な保存修理が必要である。		評価理由	旧薬園は松山重伝建地区内に位置し、観光客が有料にて見学できる私立の施設であり、環境整備することにより観光スポットとしてさらに来園者が増えることが期待できる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<p>・獣害による植物の衰退や交雑による種の消失等は、より広範囲な対策が求められ、解決困難な課題であるが、専門家の意見を参考にするなどして改善を図ることができれば、他地域のモデルとなり、松山地区の価値が更に高くなると思われる。</p> <p>・近年、環境悪化が進み、建造物の傷みも著しくなり、貴重な植物への獣害や雨漏りを防ぐためブルーシートをかけたような現状も近年見られた。有識者による策定委員会が開催され、保存活用計画に基づいて事業が続けられている。例年は、カタクリの時期に来園者も多いことから、観光スポットとして期待が大きく、事業の継続が望まれる。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>森野旧薬園の保存活用計画に基づき、施設の維持管理を計画的に行っていく。老朽化した歴史的建造物の改修を行うとともに、獣害防止対策として柵の設置など所有者と協議しながら補助金を活用し整備していく。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 国県指定史跡災害復旧事業				所管課	文化財課
事業の概要	平成29年10月21日～23日の台風21号により、国指定史跡宇陀松山城跡では11箇所法面の崩落があり、その内2箇所については大規模な崩落により、山肌を大きく露出する被害が発生した。本市の貴重な歴史的遺産を守るため、災害復旧事業を行う。					
目標・実績	国指定史跡宇陀松山城跡の被害は大規模な崩落のため、復旧計画の概要設計を行い全体的な復旧計画書を作成した後、災害復旧工事の実設計を行った。 まずは災害復旧工事用道路整備のための用地買収を行い、工事用道路を整備していく。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 災害発生直後から、近隣土地所有者等への説明を行い災害復旧に向けた了承を得ることができた。災害復旧工事には工事用道路が必要になるため、用地交渉を早期に実施したが、所有者の了解を得られるのに時間を費やした。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	災害発生後早期の対応により、災害復旧に向け、近隣土地所有者の協力も得られた。		本市の貴重な歴史的遺産を守るため災害復旧工事は必要である。	史跡の災害復旧は、歴史遺産を後世に伝える重要な業務である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	・宇陀松山城が貴重な歴史的遺産であること、災害復旧が重要であることは明白である。この事業を完遂させるために、必要な用地買収の実現に向けて尽力していただきたい。 ・宇陀市の貴重な歴史遺産を守るためにも、隣地地権者や所有者、立木所有者との交渉が基点であり、地元の支援や協力がなくては工事は進まない。年次計画に従って、早い復旧を願う。					
点検評価支援員による総合評価 【 2 】						

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 ・平成29年10月の台風21号により被災した城山の災害復旧工事を実施していく。まずは工事用道路の整備を行っていく。					
事業の総合評価 【 2 】						

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・自然保護と環境学習の推進 国指定天然記念物等保護再生事業	所管課	文化財課
-----	---	-----	------

事業の概要	宇陀市内には多くの国指定天然記念物が存在し、これらを後世に伝えるためにも危機に瀕している天然記念物を保護し、再生を図る必要がある。 向淵スズラン群落は、自生地が南限地として国に指定されているが、環境の変化によりスズランが衰退傾向にある。また、特別天然記念物オオサンショウウオは、宇陀市室生の河川に生息していることが確認されたが、全国的に生態系が解明されていないことから、まず棲息状況確認とチュウゴクオオサンショウウオとの交雑化を確認、記録し、日本固有種の保護が急務となっている。大宇陀小附所在のカザグルマ自生地は、周辺樹木の成長とともに生育環境が悪化し消失が危惧されたため、平成9年から生育調査や保全対策を講じている。
-------	--

目標・実績	向淵スズラン群落は、天然記念物に指定された昭和5年頃は、自生地周辺は雑木林であったが、時代の変遷により、杉・檜の植林による日照不足や、下草刈りの減少等によりスズランが減少してしまった。平成8・9年の原因調査では約5,500株であったが、その後の保護活動として年2回の下草刈りの実施等により、平成23年では約36,000株まで回復することができた。オオサンショウウオは、現在、室生ダムより下流の室生川、大野川、深谷川等で生息が確認されている。平成24年度に三重県教育委員会・奈良県教育委員会が策定した「特別天然記念物オオサンショウウオ保護管理指針」に基づき平成27年度から本格的に生息調査を実施している。カザグルマは継続してモニタリング調査を実施している。
-------	---

教育自己評価 委員会の	成果と課題 スズランは、これまでの観察と管理や地域住民への現地指導等も行い、平成28年度に鹿の食害により減少したが令和元年度では約51,000株の生育が確認できた。今後も定期的な管理や外来種であるドイツスズランの混在が確認されれば、その都度除去する必要がある。オオサンショウウオは、341個体が捕獲され、DNA鑑定により49個体の交雑種が確認されている。今後も生息調査等を継続し、日本固有種の保護を図る必要がある。カザグルマは、40個体群が開花している状況である。今後も保護・増殖を図る必要がある。			
	達成度	A	必要性	A
	評価理由		評価理由	
	天然記念物への保護調査及び対策により、日本固有種の保護ができた。	外来種等は繁殖力も強く、日本固有種が減衰する要因ともなっている。調査等により外来種を排除することは、重要な措置である。	宇陀市内の各種天然記念物を保護することは、後世へ継承する重要な業務である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> 近年、他県から向淵龍王ヶ淵や向淵スズラン群落を訪れる人が増えている。人が増えれば、様々な問題が発生する可能性も高まる。天然記念物等の保護のためにも、マナーやモラルを高める取組が必要である。 貴重な天然記念物を保護再生するには、日々の継続した取組が重要である。スズランの保護活動による株数の増加が顕著な事例と考える。こうした活動を市民に理解いただくためにも、子どもや市民向けの学習会などを続けて実施していく必要があると考える。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
------------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 天然記念物の保護、再生に向け環境等調査を継続していく。特にカザグルマについては減少傾向にあることから、環境調査に基づき、周囲の木の剪定や伐採を行い生育環境を改善し増殖を図っていく。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 小学校水泳教室事業	所管課	総合体育館																		
事業の概要	市内の小学校2、3年生を対象に、水泳を通してスポーツの楽しさを知り、生涯にわたりスポーツに親しむことを目的として、夏休み2日間にわたり水泳専門講師よって授業を行う。																				
目標・実績	水泳技能を学び、水泳の楽しさを知ることや基礎体力の向上、健康づくりの推進を図る。 <table border="1" data-bbox="368 600 1345 669"> <tr> <td></td> <td>平成30年度</td> <td>令和元年度</td> <td>増減率</td> </tr> <tr> <td>水泳教室生徒数</td> <td>131人</td> <td>124人</td> <td>94.7%</td> </tr> </table>				平成30年度	令和元年度	増減率	水泳教室生徒数	131人	124人	94.7%										
	平成30年度	令和元年度	増減率																		
水泳教室生徒数	131人	124人	94.7%																		
教育自己評価委員会の	成果と課題 ・小学校生活で低学年に、水泳等のスポーツに親しむことなどで多くの経験を積むことが、その後の学校生活を豊かにする。 ・全学校の参加者を班編成して振り分けることで、受講時間が少なくなる。 ・スクールバスでの送迎に移動時間が多くかかる地域がある。 <table border="1" data-bbox="212 927 1489 1176"> <tr> <td>達成度</td> <td>B</td> <td>必要性</td> <td>A</td> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>評価理由</td> <td colspan="2">対象生徒の約4割弱の子どもたちが参加している。</td> <td>評価理由</td> <td colspan="2">夏休みの時期を利用して専門講師に学ぶことができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2"></td> <td>評価理由</td> <td colspan="2">水に慣れることができ、水泳技能や基礎体力等が身につく。</td> </tr> </table>			達成度	B	必要性	A	有効性	A	評価理由	対象生徒の約4割弱の子どもたちが参加している。		評価理由	夏休みの時期を利用して専門講師に学ぶことができる。					評価理由	水に慣れることができ、水泳技能や基礎体力等が身につく。	
達成度	B	必要性	A	有効性	A																
評価理由	対象生徒の約4割弱の子どもたちが参加している。		評価理由	夏休みの時期を利用して専門講師に学ぶことができる。																	
			評価理由	水に慣れることができ、水泳技能や基礎体力等が身につく。																	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	・価値観や生活様式が多様化している中、夏休み中にも関わらず、対象児童の約4割が参加していることは、素晴らしい実績だと思う。2年生時に参加した児童の内、3年生になっても参加した児童の割合を調査することで、さらに多くの児童の参加を得る手がかりが見つかるかもしれない。 ・専門講師による指導のもと、個々の水泳技能を伸ばし、水泳の楽しさを知ることや基礎体力の向上、健康づくりを進めることを目的に継続して、開催されている。夏休みの過ごし方が多種多様になる中で、4割弱の参加があり、継続が望ましいと考える。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
--------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 子どもの水泳技能向上や基礎体力づくりのために、引き続き事業を推進していく。 <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 水泳教室事業		所管課	総合体育館	
事業の概要	水泳教室を専門業者に業務委託し、一年を通して専門講師から能力に合わせた技能を習得する。 ①水泳教室(幼児コース、児童・生徒コース、成人コース) ②水中エアロビクス				
目標・実績	ジュニアにおいては水泳の基礎技能を学びスポーツの基礎体力をつける。また、成人は水に親しみ、水泳の楽しさを知ってもらいながら、健康増進を図る。				
		平成30年度	令和元年度	増減率	
	水泳教室生徒数	323 人	391 人	121.1%	
	水中エアロビクス生徒数	10 人	10 人	100.0%	
	合計	333 人	401 人	120.4%	
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアオリンピック出場者や全国高校記録保持者を輩出し、水泳選手を育てる役割を果たしている。また、成人においては、水に親しみ、水泳の楽しさを知ってもらいながらの健康づくりに貢献した。 ・水泳教室については、新型コロナウイルスの影響により令和2年3月5日より6月30日まで中止となった。 				
	達成度	A	必要性	A	有効性
	評価理由	評価理由		評価理由	
	平成30年度と比較すると生徒数は増加した。	市内で一年を通して気軽に子どもたち等が水泳を学べる唯一の施設として受講生が多い。		技能に合わせてクラス選択ができ、上級から選手コースまで気軽に学べ上達できる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・価値のある事業だと思うが、市民全体の認知度はまだそれほど高くないように思われる。広報の仕方を工夫して、水泳教室の認知度が上がれば、さらに参加者が増え、市民の健康増進にも資するだろう。 ・幼児コースや上級の選手コースなどがあり、健康づくり事業の一環として、専門業者に委託して行われている。利用者も増えており、市内で一年を通して気軽に子どもたちが水泳を学べる唯一の施設であり、継続が望ましいと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 受講生の選手育成から体力向上、健康づくりのために支援をおこなう事業であるので、今後も推進しながら参加しやすい環境整備のために広報活動も工夫しておこなうことによって、市民の認知度を高めていく。
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 宇陀市小学校対抗子ども駅伝大会事業		所管課	総合体育館	
事業の概要	・長距離走を通して子どもたちの体力向上と健全育成を図るとともに、スポーツ全般に必要な基礎体力や連帯感を養い、豊かな人間性をつくる。 ・「宇陀市駅伝チャレンジ大会」において、小学校5、6年生の8名1チームとして市内各小学校より集まりタイムを競う。 ・各小学校5・6年生に希望者を募り、駅伝練習を3ヵ月間行った後、「奈良県市町村対抗子ども駅伝大会」に参加する。				
目標・実績	駅伝の楽しさを知り、学校の枠を越えて子どもたちの仲間意識や人を思いやる心を育てる。 ・宇陀市駅伝チャレンジ大会 参加:12チーム(97人) ・奈良県市町村対抗子ども駅伝大会 練習参加:12人 大会成績:令和元年度は新型コロナウイルスの影響により中止。				
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	駅伝の楽しさを知り、基礎体力を高め、仲間の団結を生み、将来にわたるスポーツ振興を図った。				
	達成度	B	必要性	A	有効性
評価理由	評価理由		評価理由		
チャレンジ大会においては、12チームと前年度より2チーム増えた。また市町村対抗駅伝大会においては、参加児童が練習会にも熱心に参加していたが、新型コロナウイルスの影響で大会が中止となった。	学校間を超えた仲間づくりができる機会となっている。		駅伝の楽しさを知り、仲間との連携を学ぶことが将来にわたるスポーツ振興と豊かな人間性を育むことにつながる。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な見から	・小学校体育の持久走は、自分に合ったペースで5分間程度走り続けることとされている。つまり、競争を目的とはしていない。大会となれば競争心が高まるのは当然であるが、過度な競争によって健康が損なわれることのないように配慮することが必要である。有効性の評価理由にあるように、駅伝の楽しさを知り、仲間との連携を学ぶという意識、態度を育みたい。 ・宇陀市駅伝チャレンジ大会は、第1回が7チームの参加であったが、参加チームが増え、12チームとなり、応援する人も増えている。基礎体力の向上や連帯感を養うという目的に沿って、続けることが望ましいと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 駅伝という種目を通じ、子どもたちの基礎体力や仲間との連帯感を養うと共に、健全育成の一環となるように事業を進めていく。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 大人のための運動教室事業			所管課	総合体育館																												
事業の概要	室内温水プール及び総合体育館内の施設を利用した継続型の運動教室の開催。																																
目標・実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>筋力・体力アップ体操</td> <td>12 人</td> <td>15 人</td> <td>125.0%</td> </tr> <tr> <td>エアロビクス</td> <td>21 人</td> <td>24 人</td> <td>114.3%</td> </tr> <tr> <td>ピラティス</td> <td>23 人</td> <td>25 人</td> <td>108.7%</td> </tr> <tr> <td>ヨガ</td> <td>52 人</td> <td>57 人</td> <td>109.6%</td> </tr> <tr> <td>膝腰改善ウォーキング</td> <td>49 人</td> <td>38 人</td> <td>77.6%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>157 人</td> <td>159 人</td> <td>101.3%</td> </tr> </tbody> </table>						平成30年度	令和元年度	増減率	筋力・体力アップ体操	12 人	15 人	125.0%	エアロビクス	21 人	24 人	114.3%	ピラティス	23 人	25 人	108.7%	ヨガ	52 人	57 人	109.6%	膝腰改善ウォーキング	49 人	38 人	77.6%	合 計	157 人	159 人	101.3%
	平成30年度	令和元年度	増減率																														
筋力・体力アップ体操	12 人	15 人	125.0%																														
エアロビクス	21 人	24 人	114.3%																														
ピラティス	23 人	25 人	108.7%																														
ヨガ	52 人	57 人	109.6%																														
膝腰改善ウォーキング	49 人	38 人	77.6%																														
合 計	157 人	159 人	101.3%																														
教育自己 委員会 の 評価	成果と課題																																
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を始めたいと思っている人や、運動の必要性がある人が運動実践を体験でき、定期的開催することで運動の習慣化につなげていける。 ・運動教室は、新型コロナウイルスの影響により令和2年3月5日より7月12日まで中止となった。 																																
	達成度	A	必要性	A	有効性	A																											
	評価理由 健康のため何らかの運動をしたいと思っている人に運動を実践する場を提供できた。		評価理由 「ウェルネスシティ宇陀市」を掲げ、市民の健康づくりを推進していくうえでも、継続型の運動教室は必要である。		評価理由 健康増進、体力維持、疾病予防だけでなく、人とのコミュニケーションを深めながら、心身の健康づくりに寄与できる。																												

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検 評価 員 の 主 な 意 見 か ら	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年と違い、運動する場も機会も減少していくことの多い高齢者にとって、とても貴重な事業なので、更に多くの市民にこの事業の存在をアピールしていきたい。また、各地域のいきいきサロンなどでも取り組みそうな簡単な運動を紹介していくことも良いかもしれない。 ・利用者の希望や昨年度までの利用状況をふまえ、室内温水プールや総合体育館内の施設を利用して、継続的の開催されている。3月から新型コロナ対策で、利用は中止となったが、前年比100パーセントを越える利用があり、今後も改善と工夫を重ねて継続していくことが望ましいと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 心身の健全育成に寄与できる継続型の運動教室として今後も進めていくと共に、利用者の声に耳を傾けつつ新たな運動教室も模索していく。
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 宇陀シティマラソン事業	所管課	生涯学習課			
事業の概要	「走ろう宇陀！ふれあう心」をスローガンにファミリーの部から10kmの部まで市役所周辺を会場にマラソン大会を開催。 ※温泉手湯や食推元気汁のふるまい、宇陀市の特産物のPRなどをかねて大会を開催。					
目標・実績	宇陀の豊かな自然の中で、市民をはじめ参加する方々の心身の健康ため開催。 ウェルネスシティ宇陀市構想の健康寿命の延伸や医療費抑制を目指す。 令和元年度(第13回)は、2月18日(火)に緊急対策検討会議(実行委員会)を開き、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止と決定し、申込者(1,610名)及び協力機関等に中止案内の周知を行った。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 第13回のマラソン大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止と決定。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由	評価理由	評価理由	評価理由	評価理由	評価理由
	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止。 実行委員会は、3回開催。	宇陀市開催のスポーツイベントとしては最大規模であり、ウェルネスシティ宇陀市構想の一翼を担っている。		人気のあるマラソンを宇陀市で開催することにより、健康増進・宇陀市のPRにつながっている。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・近年は、宇陀市外からの参加者も増え、宇陀市PRの一翼を担っている。ボランティアとして参加する市民も多く、一つの目標に向かって市民が協働する場としても貴重な大会となっている。令和元年度は新型コロナウイルスのためやむを得ず中止となったが、新型コロナウイルス感染が落ち着いた暁には、是非とも再開していただきたい事業である。そのために過去のノウハウの維持、保存に尽力していただきたい。 ・マラソンに対する関心が高まる中、自然豊かな宇陀の地で行われるマラソン大会として実績を重ねてきたが、新型コロナ感染拡大防止のため、中止となった。宇陀市最大のスポーツイベントであり、宇陀市のPRにつながる事業である。継続していくことが望ましいと考える。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内外の方が多く参加される宇陀シティマラソンは、市民がスポーツに親しみ健康増進の場であると共に市外に向けて宇陀市をPRする良い機会である。今後も充実した大会運営を図っていききたい。 ・大会運営に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期して運営できるように実行委員会と検討・協議を行いながら進める。 	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 市民スポーツ大会事業				所管課	生涯学習課
事業の概要	広く市民にスポーツ活動を行う機会を提供し、心の健康・体力の増進・競技力の向上を目指し、生涯を通じたスポーツ活動の振興を図る。					
目標・実績	スポーツ活動により心身の健康・体力の増強・競技力の向上を目指し、21種目の競技を実施。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、1種目(ホッケー)が開催中止となる。(3月開催)					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	20競技団体により各種目において大会が実施された。(1種目中止)(全体で約1,000人の市民が参加)人口減少に伴い競技人口は減少傾向にあるが、一人でも多くの市民がスポーツ活動が行なえるよう大会を開催する。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	体育協会が主催する大会に多くの市民が楽しみながら参加し、心身の健康のため、スポーツ活動を行った。		スポーツをすることで、体力の向上だけでなく、生活習慣病の予防・筋力やからだ機能の維持・心身の健康に大変効果的である。		スポーツにより生きがいを持ち、他者との協同・仲間と交流することで、地域社会の活性化を促す。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術活動と同じく、スポーツ活動も、人の生活、人生を豊かにするものである。しかし、人によって得手、不得手があるので、21種目という多彩な競技会が計画されたことは評価したい。今後もより多くの市民が参加できる種目を発掘し、必要な用具、器具の準備、指導者の招聘等に尽力していただきたい。老若男女を問わず全市民がスポーツに親しむ宇陀市を目指していただきたい。実現は困難であろうが、目指して取り組むことが大切だろう。 ・人口減少や高齢化の進行とともに、競技参加者は減ってきている。市民は、自らの健康や体力保持に関心が高いと思われる。市民スポーツ大会を継続するとともに、軽スポーツや体操など広く市民が参加しやすい体制づくりを考えていただきたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 <ul style="list-style-type: none"> ・市民スポーツ大会については、体育協会の各専門部が自主的に大会を運営しているが、今後もスポーツ活動が活発に行える環境整備を図っていききたい。 ・大会運営に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期して運営できるように体育協会と検討・協議を行いながら進める。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 近畿高等学校自転車競技大会・ロードレースの部		所管課	生涯学習課	
事業の概要	近畿高等学校総合体育大会の近畿大会として自転車競技大会(ロードレースの部)を宇陀市農林会館をスタートゴールとする周回コースにより大会を開催。				
目標・実績	高校総体自転車ロードレースを誘致することにより、市民の競技スポーツへの関心を高める。 全国レベルで活躍する地元高等学校自転車競技部の活躍を身近に観ることができ、宇陀市への交流人口も増やすことができた。				
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	令和元年6月9日(日)、宇陀市農林会館周辺特設コースにおいて、男子32校119名、女子6校10名の選手が参加し、観戦者約500人、競技役員・ボランティアは約200人の内容で熱戦が繰り広げられた。 地元ボランティアの方の高齢化により、今後、ボランティアスタッフの確保が課題である。				
	達成度	A	必要性	A	有効性
	評価理由	評価理由		評価理由	
	宇陀市において5回目の開催となり、多くの観客に来ていただき又多くのボランティアスタッフの協力も得られた。	宇陀市での開催でスポーツによる地域振興、地元高校生が日頃の修練を発揮する場として活躍を観客にアピールする機会である。		近畿各高等学校の多くの関係者がこの大会で宇陀市を訪れ、宇陀市のPRにつながっている事業である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	<p>・5回目の開催ということで、すっかり定着してきた感はある。近畿高校総体会場として、宇陀市PRにもなっている。さらに観戦者、応援が増えることにより盛り上がりを見せ、選手のモチベーションも高まると思うが、一般道を走行するので、安全面への対策が欠かせない。また、ボランティアスタッフの確保のためにも、計画的な事前周知の方法を工夫していく必要がある。</p> <p>・奈良県高等学校自転車競技連盟が主催する事業である。市内にある榛生昇陽高校が自転車競技で実績を積み重ねており、ロードレースを誘致することで、自転車競技のPRやスポーツツーリズムの振興につながってきていると思われる。地域おこしへの一助となり、次代を担う青少年の育成につながる事業であり、継続していくことが望ましいと考える。</p>
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>・本事業を宇陀市が進めている「自転車のまちづくり」の更なるPRにつなげていきたい。また、市民が自転車競技等への理解と関心を深めることができるよう努めていきたい。</p> <p>・大会運営に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期して運営できるように自転車競技連盟と検討・協議を行いながら進める。</p>
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

5 まとめ

宇陀市では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正を踏まえ、平成28年3月に「宇陀市教育大綱」を策定しました。

この大綱は、総合教育会議において、宇陀市の素晴らしい自然環境、地域の教育力、伝統文化を活かした教育について議論を重ね、その目指すべき教育をまとめたものです。

大綱では、4つの基本目標及びこれを推進するための5つの基本方針を設定し、方針に沿った事業に日々取り組んでおります。

さて、令和元年度は教育大綱に沿った事業の4年目となりました。今年度も宇陀市教育委員会では、教育行政のさらなる充実を図るとともに、市民への説明責任を果たすことを目的として、ここに「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書」（令和元年度施策・実施事業分）をまとめました。令和元年度に執行した教育委員会の主な事務事業を宇陀市教育大綱に基づく基本方針の項目ごとに分類し、目標の達成状況・進捗状況について教育行政点検評価支援員の意見を踏まえながら点検・評価し、とりまとめた本報告書については、市議会に提出いたします。

宇陀市においては、子どもたちの学力・学習意欲の向上や家庭・地域の教育力の向上など宇陀市の将来を担う子どもたちに関する課題や、生涯学習を推進するための環境整備や伝統文化の継承・発展等の地域社会に関する課題などに取り組んでいく必要があります。

今後の宇陀市教育委員会の方向性として、宇陀市教育大綱にある子どもたちの『生きる力』と『夢』を育むために、自己の可能性を追求し、住みよい地域社会の一員としての役割を果たし、お互いを尊重しあえる豊かな人間性を育む事業の展開に引き続きまい進してまいります。

【参考】

4つの基本目標

- ・ 確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身」を基本に、自己実現のために真摯に研鑽する教育をめざします。
- ・ 誰もが楽しく学べるために、教育環境の中長期的な展望を描きつつ、社会全体で子育てや家庭の教育力を高めることをめざします。
- ・ 社会の一員として義務と責任を果たし、自他の尊厳を尊重し、地域社会の発展に寄与する人間づくりをめざします。
- ・ 郷土の歴史や伝統文化に親しみ、地域産業の振興を通して、持続可能な社会づくりのための人材育成をめざします。

5つの基本方針

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 | 2 夢を育む教育環境づくり |
| 3 地域全体で子育てを | 4 人権文化の創造 |
| 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり | |